

○松山始審廳 (十四年十一月廿六日請訓)

豫審判事ニ於テ治罪法第百二十七條ノ規則ニ背キ故ラニ被告人  
ヲシテ十日以上拘留スルコトアレハ (モトヨリ檢事ノ請求ニモ非  
ス) 刑法第百七十八條ニ依リ處分スヘキ義ニ有之候哉果シテ  
然レハ若シ公判々事ニ於テ罪狀ヲ陳述セシムル爲メニモアラス  
唯故意ヲ以テ罰金ノ刑ニ該ルヘキ被告人タルヲ豫知シナカラ之  
ヲ拘留スルコトアレハ亦國法ニ於テ處分セサルヘカラサルモノ、  
如シ (此不審ノ起ル所以ハ豫審判事ト雖モ職務ヲ以テ自ラ被告  
人ヲ逮捕スルコトナク唯令狀ヲ發スルノミ公判々事ニ於ケルモ亦  
然リ故ニ豫審判事ノ令狀ヲ以テ被告人ヲ濫リニ監禁スルト公判  
々事ノ令狀ヲ以テ然カスルト敢テ大差ナキカ如クナレハナリ)  
然レハ該條ノ逮捕官吏トアルニ裁判官 (公判々事豫審判事) ノ包  
合セシモノト見ルハ稍穩當ナラサルヲ覺ユ故ニ或ハ裁判官ハ該  
條ヲ以テ罰スヘキ限リニアラサルモノ乎トノ疑團ヲ生セリ若シ  
果シテ右等ノ事件有之場合ニ於テハ如何處分シ可然哉

但刑法第百七十八條ノ逮捕官吏ト云ヘルハ單ニ司法警察  
官及ヒ巡查ニ限ルモノト見ルヘキ乎將タ豫就判事檢事モ之

ニ包含セシモノナル乎

内訓第三十二條判事檢事司法警察官等有心故造ニ出テ人ヲ監  
禁スル時ハ刑法第百七十八條ニ依テ處斷スヘキモノトス  
(理由) 刑法第百七十八條ニ於テハ逮捕官吏ト記載セシト  
雖モ令狀ヲ發スルヲ得ル判事檢事等ハ無論同條ニ込ルヘキ  
者ト考量ス

○群馬縣 十五年十月七日伺。全月廿三日付

第一條凡巡查ノ犯人ヲ逮捕スル時ハ素ヨリ法律規則ニ據ラサル  
可ラス然ルヲ之ニ反シ治罪法第百三十三條ノ如キ明文ニ從ハス  
家主ハ勿論其他ノ戶長又ハ隣佑ノ立會ヲ求メス家屋 (犯人住居  
ニアラス他人ノ家宅ナリ) ナ搜索セシ違法ノ所爲ハ刑法何レノ  
本條ニ相當可致哉且其潛匿セント認ムル犯人準現行犯ニ係ル時  
ハ假令他人ノ家宅ト雖モ治罪法ノ定式 (則チ百三十三條) ナ履行  
セス直ニ搜索致シ可然哉

指令第一條巡查ニ於テ惡意ヲ以テ治罪法第百三十三條第一項  
ノ規則ヲ履行セサル時ハ第百七十八條ニ依テ處分ス但現ニ  
犯人ヲ退跡スル場合ニ於テハ必シモ定式ヲ履行スルニ及ハス

官吏人等ニ對スル罪

第二百七十八條  
逮捕官吏法律ニ定メ  
タル程式規則ヲ遵守  
セスシテ人ヲ逮捕シ  
又ハ不正ニ人ヲ監禁  
シタル者ハ十五日以  
上三月以下ノ重禁錮  
ニ處シ二圓以上二十  
圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス但監禁日數十日ヲ  
過クル毎ニ一等ヲ加  
フ

第二條甲治安裁判所勸解事件ニ付（則乙裁判所管轄地ニ住居スル被告人ナリ）全所ノ勾引狀ヲ以テ其管内警察署ニ通牒シ乙裁判所并ニ他縣警察署ノ管轄地内ニ至リ直ニ其執行ヲナシ得ヘカ  
ラサルノミナラス勸解上ノ人民ヲ勾引スル等ノ法律アラサルヘシ然ルヲ之ニ反シ強テ勾引セラル、時ハ人民ニ於テ其不法ヲ難シ又ハ之ヲ拒絶シ得ヘキハ勿論却テ執行者（即巡查ナリ）ハ刑法ノ支配スル所ト可相成乎果シテ然ラハ法律ハ何レノ條ニ相當可致哉

指令第二條民事訴訟ニ付テハ從來ノ習慣ニ據リ不參者ヲ引致スル儀ハ之レアリト雖モ勸解ニ付テハ勾引ハ勿論引致スル儀モ之レ無キヲ以テ勸解事件ニ付テハ治安裁判所ハ勾引狀ヲ發スル場合ハ無之儀ト心得ヘシ但事實有之ニ於テハ其事實詳細相認メ更ニ伺出ヘシ

第三條爰ニ准現行犯正認ムル犯人アリ甲裁判處ノ管轄地内ニテ罪ヲ犯シ即時乙地住所ニ立歸レリ甲警察官ハ直チニ乙地（則他管轄地ナリ）犯人ノ居所ニ至リ直ニ之ヲ逮捕ス而シテ其署（甲地警察署）ノ留置キ場ニ之ヲ差置キ（但シ令狀ヲ發セズ勾引勾留

狀ノ日數ヲモ經過ス）數日ノ後チ管轄裁判所ノ檢察官ニ引渡ス等ノ義ハ法律ニ抵觸セル行爲ナラン若シ法律ニ違フモノトスル時ハ何レノ本條ニ相當可致哉

指令第三條甲地警察官乙地警察官内ニ至リ犯人ヲ追跡逮捕スルモ固ヨリ法律ニ抵觸スルコトナシ若シ犯人ヲ留置キ數日ヲ經過セシムルカ如キハ惡意アルキハ亦刑法第二百七十八條ニ依テ處分ス

○滋賀縣 十五年四月十八日伺。全年五月五日付

第一條司獄官吏刑期計算ヲ誤リ滿期ニ至ラサルモノヲ放免シ放免スヘキヲ留置セシ者將刑期計算ノ法ノ如クスルモ當日失給シ囚徒ヨリ督促ヲ受ケ初メテ承知シ午前ニ放免スヘキヲ午後ニ放免シ又ハ翌日覺察シ放免スル如キ素ヨリ故意ニアラス數多ノ刑期ヲ計算スルニ際シ繁雜ノ余リヨリ斯ク過ツモノニテ刑法第二百七十九條ノ司獄官吏程式規則ヲ遵守セシテ囚人ヲ監禁シ若クハ出獄セシムヘキノ時ニ至リ放免セサル者ハ云々ノ例トハ其情狀大ニ異ナリコレヲ刑法ニ問フヘキモノニ無之義ト相心得可然ヤ

指令伺之通

但滿期前ニ放免シタルモノハ刑期ニ滿ル迄更ニ執行セシムヘシ

○米澤輕罪廳檢事 十五年八月八日伺。全年九月十五日付

第二條刑法第二百七十九條司獄官吏程式規則ヲ遵守セシム云々トアリ右程式規則トハ別段ノ法律即監獄則其他囚人取扱諸規則ノミヲ指スモノガ又ハ右取扱諸規則ハ勿論治罪法中拘引拘留留置ノ

第二百七十九條  
司獄官吏程式規則ヲ遵守セシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハオ前條ノ例ニ同シ

日時ヲ忘却シ四十八時又ハ十日以外數日拘留スル如キモ包含スルモノガ

指令第二條刑法第二百七十九條ノ程式規則トハ勿論治罪法ヲモ含有スルモノナリ但シ惡意ナクシテ忘却シタル者ハ同條ニヨリ處斷スルノ限ニアラス

第二百八十條

前二條ニ記載シタル  
 官吏又ハ護送者囚人  
 ニ對シ飲食衣服ヲ屏  
 去シ其他苛刻ノ所爲  
 ナ施シタル者ハ三月  
 以上三年以下ノ重禁  
 錮ニ處シ四圓以上四  
 十圓以下ノ罰金ヲ附  
 加ス  
 因テ囚人ヲ死傷ニ致  
 シタル時ハ毆打創傷  
 ノ各本條ニ照シ一等  
 ナ加ヘ重キニ從テ處

斷ス

第二百八十一條

水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條

裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ

處斷ス

○米澤始審廳檢事

十四年十二月廿二日付  
十五年二月十六日付

治罪法第九十六條第一項第三項ノ場合ニ於テ其罪科アルヲ認  
知スルモ之ヲ告發セサルカ如キハ刑法ニ明文ナキ上ハ止テ懲戒  
例ニ處セラルヘキヤ其他豫審判事被告入ヲ訊問スヘキ時間内ニ  
之ヲ訊問セズ又第二百六條ノ如キ制裁アル場合ニ於テ檢事其時  
間内ニ起訴セラルカ如キハ一時ノ過誤ニ出ルト雖モ刑法第二百  
八十三條ニ依リ處分スヘキモノトモ甚タ酷ニ涉リ穩當ナラサ  
ルカ如シ故ニ右等モ公事失錯トシテ懲戒例ニ處セラル、モノカ  
指令懲戒例ニ該ル場合ノ如キハ豫メ之ヲ指示スルヲ難シ實際  
事ノ起リタル時々伺出ヘシ但故ヲニ遷延スルノ意ヲ以テ之ヲ  
訊問セサル時ハ刑法第二百八十三條ニ依テ處斷ス

○宮崎始審廳檢事 十五年三月一日付。同年四月一日付

刑法第二百八十三條裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セ  
ズ又ハ遷延シテ審理セサルモノハ云々トアルヲ以テ司法警察官  
ニ於テ治罪法第九十三條第二百五條ノ場合前項ノ所爲アルキハ  
則チ刑第二百八十三條ニ包含シタルモノト見做シ處斷スヘキモ  
ノニ候ヤ或ハ明文ナキヲ以テ起訴ノ手續ヲ爲サスシテ可然ヤ

第二百八十三條

裁判官檢察官故ナク  
シテ刑事ノ訴ヲ受理  
セス又ハ遷延シテ審  
理セサル者ハ十五日  
以上三月以下ノ輕禁  
錮ニ處シ五圓以上五  
十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス  
其民事ノ訴ニ係ル者  
亦同シ

官吏人民ニ對スル罪

指令後段伺之通  
(理由) 裁判官檢察官トアリテ警察官ノ文字ナキニ付本文ノ  
如シ

○新潟始審廳判事 (十五年十一月廿一日請訓)  
監獄署ノ押丁人ノ委託ヲ受ケ禮命若シテ受取シ竊カニ金貨等ヲ  
囚人ニ附與スル者アリ押丁ハ雇人ニシテ官吏ニアラサレハ刑法  
第二百八十四條ニ擬シ難シ到底不問ニ付スヘキモノト思料スレ  
ル聊カ疑義アリ御内訓ヲ乞フ  
内訓本月二十一日電報請訓ハ囚徒ヲ逃走セシムル爲メニ非サ  
ル時ハ見込ノ通り

第二百八十四條  
官吏人ノ囑託ヲ受ケ  
賄賂ヲ取受シ又ハ之  
ヲ聽許シタル者ハ一  
月以上一年以下ノ重  
禁錮ニ處シ四圓以上  
四十圓以下ノ罰金ヲ  
附加ス  
因テ不正ノ處分ヲ爲  
シタル時ハ一等ヲ加  
フ

○白河始審廳判事(十五年五月廿四日請訓)

刑法第二百八十五條裁判官民事ノ裁判ニ關シ云々トアリ單ニ民事トアレハ商事又ハ行政裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シタル等ノ者ハ無論該條ニ依リ處分スヘキ乎  
内訓見解ノ通

第二百八十五條

裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加

第二百八十六條

裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス



其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條

裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條

前數條ニ記載シタル  
賄賂已ニ收受シタル  
者ハ之ヲ沒受シ費用  
シタル者ハ其價ヲ追  
徴ス

ハ本前對ハ同ノ旨ニ  
キヨク解釋スルニ  
ハ總ノ旨ニ對シテ  
前條ノ旨ニ對シテ  
與前條同旨ニ對シ  
條二百八十九條

第三節 官吏財産ニ

對スル罪

第二百八十九條

官吏自ラ監守スル所  
ノ金穀物件ヲ竊取シ  
タル者ハ輕懲役ニ處  
ス  
因テ官ノ文書簿冊ヲ  
増減變換シ又ハ毀棄  
シタル時ハ第二百五  
條ノ例ニ照シテ處斷  
ス

○盛岡始審廳判事

(十五年一月廿三日伺  
全年二月十五日付)

第一條刑法治罪法中ノ官吏トハ等外吏及戸長ヲ總稱スルハ勿論  
各官廳ノ雇員又ハ戸長役場ノ書記即チ行政上官吏ニ準シ取扱候  
者モ該官吏中ニ包含シアル儀ニ可有之乎又雇及ヒ戸長役場書役  
ノ如キハ假令法律規則ヲ執行シ租稅等ヲ徵收スヘキ職務ヲ行フ  
ト雖モ犯罪アルニ方リテハ本籍ヲ以テ論スヘキ乎  
指令各官廳ノ雇員及ヒ戸長役場ノ書役ト雖モ行政上官吏ニ準  
シ取扱ラヘキ者法律規則ヲ執行スルニ當リ自ラ罪ヲ犯シ又ハ  
他人ノ罪ヲ犯スヲ覺知シタル時ハ官吏ヲ以テ處分スヘキ儀ト  
心付ヘシ

○熊本始審廳判事 十五年六月廿三日電報伺。全月廿八日付  
雇ノ者職務ニテ監守スル物件ヲ盜ムモ刑法第二百八十九條ニ處  
スルカ

指令雇ノ者職務上監守スル物件ヲ盜ム者官吏ニ准スル者ハ伺  
之通

○静岡始審廳檢事 十五年八月一日請訓。全月廿六日内訓

茲ニ職務上一時ノ收受ニ係ル金圓ヲ中間竊ニ費用シ免職ノ際後

任者ニ事務引継キテ爲ス所覺スルヲ恐レ曳繼書面ニ既納ノ金ニ對シ未納ノ名ヲ付シ以テ後任者ニ交付シタル者アリ今之レカ罪ヲ斷スルニ刑法第二百八十九條第一項ヲ適用スルノ穩當ナルヲ覺ユレモ其曳繼書面ニ官ノ文書ヲ以テ論シ同條第二項ニ照シ處分スヘキモノナルヤ其後任者ニ對シ交付シタル書面ハ只申傳ヘ置クニ足ルモノナルヲ後任者ノ心得迄ニ筆記シテ交付シタル一遍ノ演說書ニ外ナラズ要之後任者ノ爲メ取置キタル書面ニ異ナルヲレハ是等ノ書面ハ官常置ノ文書簿冊ト同シク論スルノ限ニアラサルヘシ是ヲ若シ當時被告カ演說書ヲ以テセズシテ宜シク口頭ノミニ止ル時ハ恐ラクハ尋常監守盜ニシテ官ノ文書ヲ變換シタル所爲ト云フヲ得サルヘシ是レヲ以テ彼ノ所謂官ノ文書ト今被告カ爲シタル演說書トハ其涇渭ノ別アルモノト思考候得共論區々ニ涉リ決シ兼候

内訓官吏監守盜ヲ犯シタル件ニ付請訓ノ趣其筆記シタル書面ハ只後任者ノ心得ノ爲メ口演ニ代ル者ニシテ其書面ヲ以テ出納ヲ證明スル正當ノ文書ニ非ラサレハ監守盜ノミヲ以テ罰スヘシ

○鳥取始審廳判事 (十五年十二月十一日請訓)

第二條明治十年本省丁第三十二号御達ニ明治九年五月第七十四号公布ヲ以テ私借官物律例ヲ被廢候ニ付右處分方ノ儀太政官ヘ伺出候處監臨主守官ノ金穀ヲ私ニ使用融通スル者ハ監守盜ヲ以テ論スヘキ旨御指令云々ト有之右使用融通トハ他日金策シテ之ヲ填補スルノ念慮ヨリ爲スモノニシテ單ニ竊取スルノ情ナキ者ヲ謂フ義ニ可有之然レモ新法施行後ハ直ニ刑法第二百八十九條ヲ適用スヘキ儀ト心得可然哉

指令第二條請訓ノ通

(理由) 監臨主守官ノ金穀ヲ私カニ使用融通シタル件舊法監守盜ノ刑ハ刑法第二百八十九條ニ改リタルヲ以テ舊法ニ依リ監守盜ヲ以テ論シタル者ハ新法ニ照セハ無論二百八十九條ヲ以テ論スヘキ儀ト考量ス

○長崎始審廳檢事 (十五年十二月十六日請訓)

郵便局雇ノ監守盜ハ官吏ノ犯罪ニナラサルヤ

内訓本月廿六日附電報請訓ノ趣右ハ官吏ニ準スヘキ者ニ係レハ刑法第二百八十九條ニヨリ處分スヘシ

○山形始審廳檢事  
地租改正ノ際其調製セシ地價帳ニ數千圓ノ差額アルヲ縣廳ニ於テ發見シ再調ノ爲メ之ヲ下付シタリ依テ其會議ニ付シ地主總休ノ地價ニ付シ正當ノ減額ヲ爲スヘキ處當時ノ戸長及ヒ四名ノ地主ト謀リ竊ニ其差額ノ金員ヲ各自ノ地價ヨリ減削シ帳簿ヲ變換シテ再ヒ縣廳ニ提出シ以テ今日マテ年々不正ノ利益ヲ占メ已レヲ富シ爲ニ他ノ人民ハ地所ヲ有スル者年々己ノ負擔スヘカラサル多少ノ地租等ヲ納付シ來ル者アリ其戸長外四名ノ所爲ハ地價帳ヲ變換シタルト詐欺取財ト二罪俱發ヲ以テ論スヘキモノナルヘシ果シテ然ラハ變換ノ罪ハ明治八年ニ在ルヲ以テ期滿免除ニ歸スルモ詐欺取財ノ罪ハ繼續犯ナルヲ以テ問罪スヘキモノト相心得可然哉

○山形始審廳檢事 (十五年六月廿一日請訓) 同年七月廿五日內訓  
地租改正ノ際其調製セシ地價帳ニ數千圓ノ差額アルヲ縣廳ニ於テ發見シ再調ノ爲メ之ヲ下付シタリ依テ其會議ニ付シ地主總休ノ地價ニ付シ正當ノ減額ヲ爲スヘキ處當時ノ戸長及ヒ四名ノ地主ト謀リ竊ニ其差額ノ金員ヲ各自ノ地價ヨリ減削シ帳簿ヲ變換シテ再ヒ縣廳ニ提出シ以テ今日マテ年々不正ノ利益ヲ占メ已レヲ富シ爲ニ他ノ人民ハ地所ヲ有スル者年々己ノ負擔スヘカラサル多少ノ地租等ヲ納付シ來ル者アリ其戸長外四名ノ所爲ハ地價帳ヲ變換シタルト詐欺取財ト二罪俱發ヲ以テ論スヘキモノナルヘシ果シテ然ラハ變換ノ罪ハ明治八年ニ在ルヲ以テ期滿免除ニ歸スルモ詐欺取財ノ罪ハ繼續犯ナルヲ以テ問罪スヘキモノト相心得可然哉

官吏財產ニ對スル罪

六百七

第二百九十條  
租稅其他諸般ノ入額ヲ徵取スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵取シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

內訓請訓ノ趣期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算スト雖モ新法其他以前ノ犯罪ニ付テハ十四年十二月三十一日迄ハ其期限ヲ中斷シタルモノトスルニ因リ請訓面地價帳變換ノ罪ハ改定律例舊惡滅免例圖ニ照ラシ全ク免スヘキモノトス又戸長カ年々不正ノ利益ヲ占メタルハ繼續犯ナルニヨリ刑法第二百九十

六百八

條ニ依リ處分シ四名ノ地主ハ同第二百九十條ニ依リ處分スル  
儀ト心得ヘシ

此節ニ記載シタル罪  
ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處  
スル者ハ六月以上二  
年以下ノ監視ニ付ス

第二百九十一條  
此節ニ記載シタル罪  
ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處  
スル者ハ六月以上二  
年以下ノ監視ニ付ス

官吏財産ニ對スル罪

第三編 身體財產ニ  
對スル重罪輕罪  
第一章 身體ニ對ス  
ル罪  
第一節 謀殺故殺  
ノ罪  
第二百九十二條  
豫メ謀テ人ヲ殺シタ  
ル者ハ謀殺ノ罪トナ  
シ死刑ニ處ス

第三編 身體財產ニ  
對スル重罪輕罪  
第一章 身體ニ對ス  
ル罪  
第一節 謀殺故殺  
ノ罪  
第二百九十二條  
豫メ謀テ人ヲ殺シタ  
ル者ハ謀殺ノ罪トナ  
シ死刑ニ處ス

第二百九十三條

毒物ヲ施用シテ人ヲ  
殺シタル者ハ謀殺ナ  
以テ論シ死刑ニ處ス

毒物ハ毒藥ノ類ニ  
テハハ毒藥ノ類ニ  
テハハ毒藥ノ類ニ  
テハハ毒藥ノ類ニ

毒物ノ施用ニ  
テハハ毒藥ノ類ニ

毒物ノ施用ニ  
テハハ毒藥ノ類ニ

毒物ノ施用ニ  
テハハ毒藥ノ類ニ

第二百九十四條

故意ヲ以テ人ヲ殺シ  
タル者ハ故殺ノ罪ト  
爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條

支解折割其他慘刻ノ  
所爲ヲ以テ人ヲ故殺  
シタル者ハ死刑ニ處  
ス

支解折割其他慘刻ノ  
所爲ヲ以テ人ヲ故殺  
シタル者ハ死刑ニ處  
ス

第二百九十六條

重罪輕罪ヲ犯スニ便  
利ナル爲メ又ハ已ニ  
犯シテ其罪ヲ免カル  
爲メ人ヲ故殺シタル  
者ハ死刑ニ處ス

重罪輕罪ヲ犯スニ便  
利ナル爲メ又ハ已ニ  
犯シテ其罪ヲ免カル  
爲メ人ヲ故殺シタル  
者ハ死刑ニ處ス



第二百九十七條

人ヲ殺スノ意ニ出テ  
詐稱誘導シテ危害ニ  
陷レ死ニ致シタル者  
ハ故殺ヲ以テ論シ其  
豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ  
以テ論ス

第二百九十八條

謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ  
他人ヲ殺シタル者ハ  
仍ホ謀殺ヲ以テ論  
ス

○長野始審廳檢事 (十五年十二月 日問合)

第一條刑法第二百九十八條ニ謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル

ル者云々トアリテ其殺シ得ズシテ創傷シ癱篤疾以下ニ致シタル

時ノ明文ナシ右ハ左ノ三項ノ内何レヲ適用シ至當ト爲スヘキ哉

一本條ノ未遂犯ト爲スヘキ乎

二通常ノ毆打創傷ヲ以テ論スヘキ乎

三刑法第三百四條ヲ適用スヘキ毆打創傷ト爲スヘキ乎

回答第一條犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ出タル場合ハ未遂犯

ト爲シ犯人自カラ殺意ヲ止メタル場合ハ通常ノ毆打創傷ヲ以

テ論スヘキモノトス

第二節 毆打創傷ノ

罪

第二百九十九條

人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

○山形始審廳判事 十五年五月四日伺。全年全月十八日付 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科スト刑法第三百四條ニ明文有リ其毆打ニ因リ誤テ他人ヲ殺シタル者ニ至リテハ刑法中之レヲ罰スルノ正條アルナシ刑法中其正條ノ之レナキ上ハ同法二條ニヨリ其罪ヲ罰スヘキモノニアラスト考量セシモ毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者尙ホ且ツ其本刑ヲ科ス然ルヲ況ンヤ之レヲ殺シタルモノニ於テ何ソ罰セサルノ理アナンヤ然リト雖モ刑法中其明文ノアラサル限リハ所謂法律ノ欠曲ナシ立法官之レヲ補正スト迄ハ裁判官ニ於テ無論刑法第二條ニ依リ其罪ヲ罰セサルノ儀ト心得可然ヤ

指令伺之趣人ヲ毆打スルニ因リ誤テ他人ヲ創傷シ爲ニ死ニ致シタル者ハ刑法第三百四條及ヒ第二百九十九條ニ依リ處分スル儀ト心得ヘシ

○茨城縣 十五年二月十四日伺。全月廿八日付 人ヲ毆打創傷シ又ハ人ノ家屋物品ヲ毀損シ及ヒ動植物ヲ害スル者ハ刑法第九十二條以下及ヒ第四百十四條以下ヲ適用スヘキハ勿論ノ所右ハ專ラ凡人ヲ指稱セシ儀ニテ之ヲ親屬ニ適用スルヲ得サルモノ、如シ若シ刑法第九十四條ニ掲ケアル各居ノ親屬互ニ毆打創傷シ又ハ家屋物品ヲ毀損シ動植物ヲ害スル者アルハハ法ニ明條ナキヲ以テ其罪ヲ論セサル儀ト相心得可然ヤ將タ親屬ト凡人トヲ分ダス總テ適用スヘキ儀ニ可有之哉

指令伺之趣毆打創傷ノ罪ハ親屬ニ係ルモ凡人ト同シ論シ家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪刑法第二百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ同條ニ準シ其罪ヲ論セザル儀ト心得ヘシ

(理由)毆打シテ創傷シタル如キハ即チ身体ニ對スル罪ナルヲ以テ假令親屬ニ係ルモ刑法明文ノ通凡人ト同シ論セサルヲ得サルヘシト雖モ家屋物品ヲ毀壞シタル如キハ即チ財產ニ對スル罪ナルニ因リ假令刑法ニハ明文ナシト雖モ刑法第三百七十七條ニ掲ケアル親屬ニ係ルキハ竊盜若クハ詐欺取財等ノ權衡ニ準シ其罪ヲ論セサルヲ相當ナリト考量

人ヲ毆打創傷シ其兩  
目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ  
又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ  
舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗  
シ若クハ知覺精神ヲ  
喪失セシメ篤疾ニ致  
シタル者ハ輕懲役ニ  
處ス  
其一目ヲ瞎シ一耳ヲ  
聾シ又ハ一肢ヲ折リ  
其他身體ヲ殘虧シ癱  
疾ニ致シタル者ハ二  
年以上五年以下ノ重

第三百條

人ヲ毆打創傷シ其兩  
目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ  
又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ  
舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗  
シ若クハ知覺精神ヲ  
喪失セシメ篤疾ニ致  
シタル者ハ輕懲役ニ  
處ス  
其一目ヲ瞎シ一耳ヲ  
聾シ又ハ一肢ヲ折リ  
其他身體ヲ殘虧シ癱  
疾ニ致シタル者ハ二  
年以上五年以下ノ重

禁錮ニ處ス

其ノ罪ニ依リテ禁錮ニ處スル者ハ其ノ罪ノ輕重ニ依リテ禁錮ノ期間ハ一月以上五年以下ニ定ムルコトナリ

第三百一條

人ヲ殴打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムル能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス  
其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
疾病休業ニ至ラズト雖モ身體ニ創傷ヲ成

○ 妊娠始審應判事

(十四年十二月二日請訓)  
(十五年一月十九日内訓)

第三百一條婦女ノ頭髮ヲ截斷シタル者モ又本條中ニ包含シタル者ト解釋スルヲ得ヘキカ

内訓本條ニ包含セス

(理由) 頭髮ヲ切斷スルモ本條ニ所謂身體ヲ創傷スト云フヘキ者ニアラス

シタル者ハ十一日以下一月以下ノ重禁錮ニ處ス

一員以上ノ被害者ハ  
十日以上ノ禁錮ニ處ス  
二人以上ノ被害者ハ  
十五日以上ノ禁錮ニ處ス  
三人以上ノ被害者ハ  
二十日以上ノ禁錮ニ處ス  
四人以上ノ被害者ハ  
三十日以上ノ禁錮ニ處ス  
五人以上ノ被害者ハ  
四十日以上ノ禁錮ニ處ス  
六人以上ノ被害者ハ  
五十日以上ノ禁錮ニ處ス  
七人以上ノ被害者ハ  
六十日以上ノ禁錮ニ處ス  
八人以上ノ被害者ハ  
七十日以上ノ禁錮ニ處ス  
九人以上ノ被害者ハ  
八十日以上ノ禁錮ニ處ス  
十人以上ノ被害者ハ  
九十日以上ノ禁錮ニ處ス  
十一人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十二人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十三人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十四人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十五人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十六人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十七人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十八人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
十九人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス  
二十人以上ノ被害者ハ  
一年以上ノ禁錮ニ處ス

○福島裁判所平支廳檢事

十四年十二月五日請訓  
十五年二月七日内訓

刑法第三百二條ニ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ云々トアルハ休業癱篤疾及ヒ死ノ四結果アルヲ除クノ外疾病休業ニ至ラス又ハ疾病ニ罹ラシメタル者ノ如キ其所爲豫謀ニ出ルト雖モ加等ノ限リニアラスト解釋シテ可然哉

内訓豫メ謀テ人ヲ毆打創傷スレハ假令休業疾病ニ至ラサルモ刑法第三百二條ニヨリ加等スル儀トナス

○上田始審廳檢事 十五年八月十四日請訓。同月廿三日内訓  
茲ニ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷セシ者アリ而被害者ニ於テハ爲ニ疾病休業ニ至ラスト雖モ刑法第三百二條ニヨリ同三百一條第三項ノ刑ニ加等シ處分可致者ト相考候得共第三百二條ノ文意ヲ考フルニ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷スルモ其休業癱篤疾又ハ死ニ致セハル者ハ加等ノ限ニアラサルヤニモ相考疑義難決ニ付仰内訓候也  
内訓請訓ノ趣加等ノ限ニアラヌ

○平始廳審檢事 十五年九月十四日請訓。同月廿九日内訓  
豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ疾病ニ至ラシメタル者ハ刑法第三百二條ニ加等スヘキ明文無之然ルニ内訓第三條ニ人ヲ疾病ニ至ラシ

第三百二條

豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

メタル者若シ豫謀ニ出タル時ハ刑法第三百二條ニヨリ加等スヘ  
キ者トスアリ此義ニ付テハ先キニ差出シタル請訓第三條ニ纏々  
記載シタル次第ニ付果シテ加等スヘキ者ナンハ其理由詳細御示  
シ相成度候也

内訓請訓ノ趣刑法第三百二條休業ノ二字ハ疾病ヲ包含シタル  
者トス但一時疾病ヲ生スルモ休業ニ至ラサルモノハ此限ニア  
ラス

(理由)右ハ先キニ内訓セシ如ク人ヲ毆打シ疾病ニ至ル時ハ  
假令外面ハ創傷セサルモ内部ニハ必ス創傷ヲ爲シ休業ヲ兼  
ヌル者ニシテ特ニ疾病ノミニ止ルコトナルヘシ故ニ若シ豫  
謀ニ出タル時ハ猶ホ同條ニ依リ加等シテ可然ト考量ス

（理由）右ハ先キニ内訓セシ如ク人ヲ毆打シ疾病ニ至ル時ハ  
假令外面ハ創傷セサルモ内部ニハ必ス創傷ヲ爲シ休業ヲ兼  
ヌル者ニシテ特ニ疾病ノミニ止ルコトナルヘシ故ニ若シ豫  
謀ニ出タル時ハ猶ホ同條ニ依リ加等シテ可然ト考量ス

（理由）右ハ先キニ内訓セシ如ク人ヲ毆打シ疾病ニ至ル時ハ  
假令外面ハ創傷セサルモ内部ニハ必ス創傷ヲ爲シ休業ヲ兼  
ヌル者ニシテ特ニ疾病ノミニ止ルコトナルヘシ故ニ若シ豫  
謀ニ出タル時ハ猶ホ同條ニ依リ加等シテ可然ト考量ス

（理由）右ハ先キニ内訓セシ如ク人ヲ毆打シ疾病ニ至ル時ハ  
假令外面ハ創傷セサルモ内部ニハ必ス創傷ヲ爲シ休業ヲ兼  
ヌル者ニシテ特ニ疾病ノミニ止ルコトナルヘシ故ニ若シ豫  
謀ニ出タル時ハ猶ホ同條ニ依リ加等シテ可然ト考量ス

（理由）右ハ先キニ内訓セシ如ク人ヲ毆打シ疾病ニ至ル時ハ  
假令外面ハ創傷セサルモ内部ニハ必ス創傷ヲ爲シ休業ヲ兼  
ヌル者ニシテ特ニ疾病ノミニ止ルコトナルヘシ故ニ若シ豫  
謀ニ出タル時ハ猶ホ同條ニ依リ加等シテ可然ト考量ス

第三百三條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條

毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條

二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラズ

第三百六條

二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス



○鹿兒嶋始審廳判事 (十五年二月廿二日伺) 同年七月十四日付

第九條第三百七條ハ健康ヲ害スヘキ物品トアラテ該條ノ精神ハ決シテ生命ヲ害スル事ナキヲ豫定シタル者ナルヘシト雖モ若シ被害者ハ弱体ニテ遂ニ死ニ至ルノ不幸アラハ施用者ハ何條ニ問疑スル歟健康体ニ在テハ疾苦ニ止ルモ其人ニ對シテハ猶ホ殺ニ堪ユヘキ劇藥ナレハ即チ毒殺犯ナリテ論スル乎

指令第九條豫メ謀テ人ヲ毆打シ死ニ致シタル者ヲ以テ處分スヘシ

(理由) 毒藥ヲ施用シ人ヲ死ニ致シタル者若シ殺スニ意アリテ爲シタル時ハ無論毒殺ナリテ論スヘキモ殺スニ意ナク唯ニ疾苦セシメントスルニ止ル者ハ假令其被害者弱体ニシテ死ニ至ルモ其毒藥ノ分料通常人ヲ殺スニ堪ヘサル者ナル時ハ毒藥ヲ以テ論スヘキ者ニ非ス刑法第三百二條ニ依リ豫メ謀テ人ヲ毆打シ死ニ致シタル者ヲ以テ論スヘキ者ト考量ス

第三百七條

健康ヲ害スヘキ物品ヲ使用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

健康ヲ害スヘキ物品トアラテ該條ノ精神ハ決シテ生命ヲ害スル事ナキヲ豫定シタル者ナルヘシト雖モ若シ被害者ハ弱体ニテ遂ニ死ニ至ルノ不幸アラハ施用者ハ何條ニ問疑スル歟健康体ニ在テハ疾苦ニ止ルモ其人ニ對シテハ猶ホ殺ニ堪ユヘキ劇藥ナレハ即チ毒殺犯ナリテ論スル乎

健康ヲ害スヘキ物品トアラテ該條ノ精神ハ決シテ生命ヲ害スル事ナキヲ豫定シタル者ナルヘシト雖モ若シ被害者ハ弱体ニテ遂ニ死ニ至ルノ不幸アラハ施用者ハ何條ニ問疑スル歟健康体ニ在テハ疾苦ニ止ルモ其人ニ對シテハ猶ホ殺ニ堪ユヘキ劇藥ナレハ即チ毒殺犯ナリテ論スル乎

第三百八條

人ヲ殺スノ意ニ非ス  
ト雖モ詐稱誘導シテ  
危害ニ陷レ因テ疾病  
死傷ニ致シタル者ハ  
毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關ス

ル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條

自己ノ身體ニ暴行ヲ  
受クルニ因リ直チニ  
恕ヲ發シ暴行人ヲ殺  
傷シタル者ハ其罪ヲ  
宥恕ス

但不正ノ所爲ニ因リ  
自ラ暴行ヲ招キタル  
者此限ニアラス

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百十條

毆打シテ互ニ創傷シ  
其手ヲ下スノ先後ヲ  
知ルコト能ハサル者ハ  
各其罪ヲ宥恕スルコ  
ト得

此條ノ意ハ、互ニ創傷シ、其手ヲ下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ、各其罪ヲ宥恕スルコト得、ト云フ事也。

第三百十一條

本夫其妻ノ姦通ヲ覺  
知シ姦所ニ於テ直チ  
ニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺  
傷シタル者ハ其罪ヲ  
宥恕ス但本夫先ニ姦  
通ヲ縱容シタル者ハ  
此限ニ在ラス

此條ノ意ハ、本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス、ト云フ事也。

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百十二條

晝間故ナク人ノ住居  
シタル邸宅ニ入り若  
クハ門戸牆壁ヲ踰越  
損壞セントスル者ヲ  
防止スル爲メ之ヲ殺  
傷シタル者ハ其罪ヲ  
宥恕ス

此條ノ旨ハ晝間ニテ人ノ住居ニ入り或ハ門戸牆壁ヲ損壞セリ或ハ踰越シテ入り或ハ其ノ中ニテ何カノ物ヲ損壞セリ或ハ其ノ中ニテ何カノ人ヲ殺傷セリ等ノ事ハ其ノ罪ヲ宥恕スルニ在リ

第三百十一條

第三百十三條

前數條ニ記載シタル  
宥恕シ可スキハ各本  
刑ニ照シ二等又ハ三  
等ヲ減ス

此條ノ旨ハ前數條ノ罪ニ對シテ其ノ刑ノ輕重ニ依リテ二等又ハ三等ノ刑ヲ減スルニ在リ

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

○滋賀縣警部 十五年五月一日質問。四月三日回答  
 刑法第三百十四條ニ身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムヲ得サルニ出  
 テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ云々自己ノ爲ニシ他人ノ爲メニスル  
 ヲ分タス其罪ヲ論セストアルハ仮令ハ強姦セラレント爲ルヲ百  
 方防止スルヲ之ヲ支ユルヲ能ハス止ムヲ得ス之ヲ殺傷シタル等  
 ノ所爲ニシテ自ラ求メテ爲シタル所爲ヲ謂フニアラサルヤ明ナ  
 リ然ルニ現行犯及令狀執行ノ際犯人其捕ヲ遁レント抗拒シ又ハ  
 逃走スル場合或ハ反獄脱逃スル等ノ者ヲ殺傷スル如キハ其所爲  
 身體生命ヲ防衛スルニ出テタルモノト謂フヲ得ヌ又之レヲ尋常  
 ノ毆打創傷闘毆殺ヲ以テ論スルハ允當ナラス右ハ如何處分可相  
 成儀ニ候ヤ  
 回答實際不得已殺傷スルニ至リタル場合ハ罪ヲ問ヒ難シト雖  
 モ其實際ノ情狀ヲ觀ルニ非サレハ一概ニ論シ難シ

第三百十四條  
 身體生命ヲ正當ニ防  
 衛シ已ムヲ得サル  
 ニ出テ暴行人ヲ殺傷  
 シタル者ハ自己ノ爲  
 メニシ他人ノ爲メニ  
 スルヲ分タス其罪ヲ  
 論セス但不正ノ所爲  
 ニ因リ自ラ暴行ヲ招  
 キタル者此限ニ在ラ

(This area is mostly blank with some faint bleed-through from the reverse side of the page.)

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不諭罪  
 第三百十四條  
 身體生命ヲ正當ニ防  
 衛シ已ムヲ得サル  
 ニ出テ暴行人ヲ殺傷  
 シタル者ハ自己ノ爲  
 メニシ他人ノ爲メニ  
 スルヲ分タス其罪ヲ  
 論セス但不正ノ所爲  
 ニ因リ自ラ暴行ヲ招  
 キタル者此限ニ在ラ

第三百十五條

左ノ諸件ニ於テ已ム  
 一 得サルニ出テ人  
 ナ殺傷シタル者ハ其  
 罪ヲ論セス  
 一 財産ニ對シ放火其  
 他暴行ヲ爲ス者ヲ  
 防止スルニ出タル  
 時  
 二 盜犯ヲ防止シ又ハ  
 盜贓ヲ取還スルニ  
 出タル時  
 三 夜間故ナク人ノ住  
 居シタル邸宅ニ入

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

リ若クハ門戸牆壁  
 ナ踰越損壞スル者  
 ナ防止スルニ出タ  
 ル時

○弘前始審廳檢事

十五年十月廿三日請訓  
同年十一月八日內訓電報

玆ニ甲太ナル者アリ或ル夜窺カニ乙次ノ家ニ至リ其寢所ノ窓一尺二寸四方ヨリ踰越侵入シ乙次ノ妻某女ノ寢臥セル肩ヲ動カシタルニ某女ハ忽然目ヲ覺マシ我夫ニ非サルヲ以テ之ヲ拒ムカ爲メ誰ナルヤト聲立テ咎メタレハ甲太ハ素トノ窓ヨリ逃脫セシト既ニ半身窓外ニ出タル折柄家主乙次ハ外ヨリ入來リ其何タル事情ヲ知ラス突然之ヲ見テ直チニ其窓ヨリ甲太ヲ引下ロシ其氏名ヲモ問ハス面体ヲモ認メス手足ヲ以テ之ヲ毆打スルノミナラス其前川ノ水中ニ突入レタリ是ニ於テ甲太ハ二十日以上ノ時間疾病ニ罹ルノ創傷ヲ負ヒタリ右乙次ノ處分ニ對シ三說アリ第一無罪第二刑法第三百五十條第三及ヒ同第三百十六條但書ニ因リ宥恕スヘキモノ第三通常毆打創傷ノ罪トナシ刑法第三百一條第一項ニヨリ處分スヘキモノ此三說中何レニ因リ處分スル方至當ナル者ニ有之候哉

シカラス

内訓本年十月廿三日付ヲ以テ毆打創傷罪處斷ノ儀ニ付請訓ノ趣右ハ情狀ニヨリ刑法第三百十六條但書ニ依リ處斷スルモ苦

第三百十六條

身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

六百四十五

第四節 過失殺傷ノ

罪

第三百十七條

疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○新潟縣 十五年三月十一日伺。全月廿八日付、刑法第三百十七條ニ曰ク疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス云々トアリテ今茲ニ瘋癲人ヲ甲縣ヨリ乙縣ニ傳遞送セシニ甲縣ヨリハ醫師ノ診斷書ヲ(瘋癲症ト)及ヒ該村戸長役場ノ傳遞狀(割書)等ヲ付シ看護人ヲ付シ傳遞セシニ或ル驛戸長役場ニ於テ瘋癲者曰ク最早病治シタリ故ニ從是獨歩セント於茲該戸長タルヤ瘋癲ノ文字ニ心付カス任願意前顯ノ書類及ヒ繰替帳等ヲ本人ニ付シ放遣セシニ其瘋癲者途中ニ於テ溺死セリト云フ如此ハ本條ニ據ルノ限リニ無之哉或ハ瘋癲ノ文字ニ心付カサルノミナラス前驛ヨリ看護人ヲ付シ傳遞セシチモ願ミス單ニ本人ノ意ニ任セ放遣セシハ則疎虞懈怠ノ責ヲ免カレサルモノナルヤ指令官吏懲戒例ニ依ルハ格別刑法ニ依テ處斷スヘキモノニ非ス

(理由)第二條瘋癲者途中ニ於テ溺死セリト如此ハ其瘋癲者瘋癲ナルカ故ニ溺死セシ哉又ハ瘋癲全愈シ通常人トナリ誤テ溺死セシヤ分明ナラス良シヤ瘋癲ノ故ニ因テ溺死セシトスルモ已ニ瘋癲者一度死テ決シタル時ハ假令之ヲ看護スル

モ決シテ死ニ至ラシメスト保スルコ能ハス然ラハ刑法第三百十七條ニ依テ處斷スルハ不當ナルモノナリト雖モ亦戸長ニ於テ全ク懈怠ナシトセサルモノナレハ到底懈怠ノ責ハ免カレ難キニ依テ官吏懲戒例ニ照シ懲戒スルヲ妥當ナルモノト覺ユ

○宇都宮輕罪廳檢事 (十五年十一月七日請訓)

同月十七日內訓

病者アリ其父母ノ狐憑ト誤認シ僧某ニ祈禱ヲ請フ僧之ニ應シ病者ノ面前ニ於テ讀經シ且線香及ヒ硫黃ヲ以テ病者ヲ薰ス病者其瓦斯ノ中毒ニ依リ遂ニ死ス而シテ父母及僧某其始ヨリ病者ヲ疾苦セシメ又ハ之ヲ殺スノ意志アルニ非ス如此スレハ其病ノ平癒スルモノトノ真心ニ出テタルコト明白ニシテ毫モ惡意ナキモノアリ右僧某ハ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタルモノナリト雖モ惡意ナキヲ以テ刑法第二百九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス第二百九十九條ノ毆打死ニ致シタル者ニ適用スヘカラサルカ如シ過失殺傷ノ罪トシ第三百十七條ニ問ハンカ疎虞懈怠又ハ規則ヲ遵守セサルニ因ルノ所爲ニアラス旁疑義ニ涉リ候右ハ刑何條ヲ適用スヘキヤ



内訓請訓ノ趣刑法第三百十七條ニ依リ處分スル儀ト心得ヘシ

(理由) 右ハ惡意ニ出テタルニアラサルモ其所爲タル疎虞懈

怠ト謂ハサルヲ得ス且教部省ノ布達ニ背キタレハ即規則ヲ

遵守セサルモノトス

○愛知縣 十五年九月十九日伺。同年十月二日付

警部巡查其職務ヲ行フニ當リ誤テ人ヲ死傷セシメタル者ハ刑法

第三百十七條以下ニ依リ處分可相成モノ歟又ハ懲戒懲罰ノ兩例

ニ照シ可然モノナル歟

指令前段伺ノ通

第三百十八條

過失ニ因テ人ヲ創傷  
シ癩篤疾ニ致シタル  
者八十圓以上百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條  
過失ニ因テ人ヲ創傷  
シ疾病休業ニ至ラシ  
メタル者ハ二圓以上  
五十圓以下ノ罰金ニ  
處ス

凡ソ人ノ生命ヲ  
害スルニシテ  
過失ニ因リテ  
人ヲ創傷シ  
疾病休業ニ  
至ラシメタル  
者ハ二圓以上  
五十圓以下ノ  
罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條

人ヲ教唆シテ自殺セ  
シメ又ハ囑託ヲ受ケ  
テ自殺人ノ爲メニ手  
ヲ下シタル者ハ六月  
以上三年以下ノ輕禁  
錮ニ處シ十圓以上五  
十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス其他自殺ノ補助  
ヲ爲シタル者ハ一等  
ヲ減ス

新潟始審廳檢事 十五年三月十五日伺。同月三十日付電報  
男女俱ニ死ヲ謀リ藥ヲ仰ク一人醫師ノ治療ニテ蘇生セシ者アリ  
此如キハ有罪トスヘキカ將無罪ナルヘキカ蘇生セシ者強テ死ヲ  
促カセシニアラサルトキハ如何刑法三百二十條ハ此如キ者ヲモ  
罰メヘキ法意ナラン歟疑ヒアリ此段伺フ至急御指令ヲ乞フ  
指令伺之趣蘇生セシ者同死ヲ教唆補助シタルニ非サレハ刑法  
第三百二十條ニ問フヘカラス

第三百二十一條

自己ノ利ヲ圖リ人ヲ  
教唆シテ自殺セシメ  
タル者ハ重懲役ニ處  
ス

第六節 擅ニ人ヲ逮

捕監禁スル罪

第三百二十二條

擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ  
私家ニ監禁シタル者  
ハ十一日以上二月以  
下ノ重禁錮ニ處シ二  
圓以上二十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス但監禁  
日數十日ヲ過クル毎  
ニ一等ヲ加フ

○前橋始審廳檢事 十五年十一月八日伺。同月十日付電報

刑法三百二十二條私家ニ監禁トアルハ一室ニ閉込メタルハ勿論  
唯家内ニ抑留シタルモノモ含蓄スルカ

指令刑法三百二十二條ニ付伺ノ趣監禁ノ情狀アルモノハ見込  
ノ通

○茨城縣 十五年十一月廿八日伺。同年十二月一日付

刑法第三百廿二條ニ擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタルモノ  
ハ云々トアリ此ノ私家ト公ニ人ヲ監禁スヘキ場所即チ監獄留置  
場等ニ對スル私家ニシテ公ニ設立セル病院學校等ト雖私家ト相  
心得可然哉  
指令學校病院ト雖モ監禁ノ情狀アル時ハ伺ノ通

第三百二十三條

擅ニ人ヲ監禁制縛シ  
テ毆打拘責シ又ハ飲  
食衣服ヲ屏去シ其他  
苛刻ノ所爲ヲ施シタ  
ル者ハ二月以上二年  
以下ノ重禁錮ニ處シ  
三圓以上三十圓以下  
ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ  
人ヲ疾病死傷ニ致シ  
タル者ハ毆打創傷ノ  
各本條ニ照シ重キニ  
從テ處斷ス

第三百二十五條

擅ニ人ヲ監禁シ水火  
震災ノ際其監禁ヲ解  
クコトヲ怠リ因テ死傷  
ニ致シタル者ハ亦前  
條ノ例ニ同シ

凡ソ人ヲ監禁シ水火  
震災ノ際其監禁ヲ解  
クコトヲ怠リ因テ死傷  
ニ致シタル者ハ亦前  
條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條

人ヲ殺サント脅迫シ  
又ハ人ノ住居シタル  
家屋ニ放火セント脅  
迫シタル者ハ一月以  
上六月以下ノ重禁錮  
ニ處シ二圓以上二十  
圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス  
毆打創傷其他暴行ヲ  
加ヘント脅迫シ又ハ  
財産ニ放火シ及ヒ毀  
壞劫掠セント脅迫シ

タル者ハ十一日以上  
二月以下ノ重禁錮ニ  
處シ二圓以上十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

ノ  
ニ  
ノ  
ノ  
ノ

第三百二十七條

兇器ヲ持シテ前條ノ  
罪ヲ犯シタル者ハ各  
一等ヲ加フ

第三百二十八條

親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

○福嶋裁判所米澤支廳檢事

(十四年十二月二日伺 十五年二月十六日付)

刑法第三百二十九條云々脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト有之候處本人ニ於テハ聊カ之ヲ意ニ介セス告訴權ヲ拋棄スルニ親屬之ヲ肯セス告訴ヲナシタル場合ニ於テハ其効無之哉又第三百六十條ニハ云々誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト有之右脅迫罪ニ於テハ親屬ニモ告訴權ヲ與ヘ誹毀罪ニ於テハ之ヲ與ヘサルハ如何ナル理由ニ可有之哉

指令前段單ニ本人ニ係ル脅迫ハ親屬ヨリ告訴スルノ限ニアラズ若シ間接ニ親屬ヲ脅迫シタル場合ニ於テハ仮令直接ニ脅迫セラレタル本人告訴權ヲ拋棄スルモ其親屬ヨリ告訴スレハ其効アリトス後段ハ誹毀セラレタル本人ニ限り告訴ヲ爲シ死者ニ係ルトキハ其親屬ヨリ告訴スルヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ但伺面三百六十條トアルハ三百六十一條ノ誤字ナラン

(理由)脅迫罪ハ一種特別ノモノニシテ果シテ脅迫ノ効アリタルヤ否ハ他人ノ知ルヲ得ヘキ者ニアラス然ルニ刑法第百二十九條ニ云々又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツト定メタルハ親屬

第三百二十九條

此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

ニ害ヲ加フヘキヲ以テ脅迫セタル場合ニハ其親屬ヲシテ  
告訴セシムル者ニシテ單ニ脅迫ヲ受ケタル本人一身ノコ  
係ル時モ仍ホ親屬ニ告訴權ヲ與フルト云フニ非ス誹毀ノ罪  
ハ現ニ誹毀セラレタル本人一人ニ限り其死者ニ係ルキハ親  
屬ニテ告訴スルコトヲ得是レ第三百六十一條ニ被害者トアル  
ヲ以テ明カナリ

第八節 墮胎ノ罪  
第三百三十條  
懷胎ノ婦女藥物其他  
ノ方法ヲ以テ墮胎シ  
タル者ハ一月以上六  
月以下ノ重禁錮ニ處  
ス



第三百三十一條

藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ又前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條

醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條  
 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ  
 又ハ誑騙シテ墮胎セ  
 シメタル者ハ一年以  
 上四年以下ノ重禁錮  
 ニ處ス

第三百三十四條  
 懷胎ノ婦女ナルヲ知  
 テ毆打其他暴行ヲ  
 加ヘ因テ墮胎ニ至ラ  
 シメタル者ハ二年以  
 上五年以下ノ重禁錮  
 ニ處ス其墮胎セシム  
 ルノ意ニ出タル者ハ  
 輕懲役ニ處ス

第三百三十五條

前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○新瀉縣 十五年三月十一日伺。同月廿八日付  
刑法第三百三十六條ニ曰ク八歳ニ滿タサル幼者ヲ遺棄シタル者ハ云々第三百三十七條ニ曰ク八歳ニ滿タサル幼者又ハ老疾者ヲ

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條

八歳ニ滿タサル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
自ヲ生活スル能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

○新瀉縣 十五年三月十一日伺。同月廿八日付

刑法第三百三十六條ニ曰ク八歳ニ滿タサル幼者ヲ遺棄シタル者ハ云々第三百三十七條ニ曰ク八歳ニ滿タサル幼者又ハ老疾者ヲ  
寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ云々トアリ該兩條ノ精神タルヤ一ハ市街其他ノ往復スル場所へ遺棄シタル者ニノ暗ニ他人ノ救育ヲ乞フ者ヲ云ヒ一ハ寥闕無人ノ地ニシテ前條ト異ナリ其危嶮ヲ顧ミズ其饑餓ヲ患ヘサル殘忍ノ所爲者ヲ云フヤ論ヲ俟タサルヘシ果シテ然ラハ其自活スルヲ得サル者(盲目ニシテ且羸弱ノ妻及八歳未滿ノ者)ヲ自家ニ遺留シ逃亡シ遺族ハ他人ノ救恤ニ因ラスンハ即日饑餓スル類ノ如キモ遺棄シタルノ限リニ無之哉或ハ場所ノ明文ナキヲ以テ自家他家及ヒ路上ノ別ナク總テ遺棄ト爲シ則チ第三百三十六條ニ據ルヘキ義ナル哉  
指令遺棄ノ情狀アル者ハ伺ノ通

幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十七條

八歳ニ滿タサル幼者  
又ハ老疾者ヲ寥闕無  
人ノ地ニ遺棄シタル  
者ハ四月以上四年以  
下ノ重禁錮ニ處ス

八歳ニ滿タサル幼者  
又ハ老疾者ヲ寥闕無  
人ノ地ニ遺棄シタル  
者ハ四月以上四年以  
下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條

給料ヲ得テ人ノ寄託  
ヲ受ケ保養ス可キ者  
前二條ノ罪ヲ犯シタ  
ル時ハ各一等ヲ加フ

給料ヲ得テ人ノ寄託  
ヲ受ケ保養ス可キ者  
前二條ノ罪ヲ犯シタ  
ル時ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條

幼者老疾者ヲ遺棄シ  
因テ癱疾ニ致シタル  
者ハ輕懲役ニ處シ篤  
疾ニ致シタル者ハ重  
懲役ニ處シ死ニ致シ  
タル者ハ有期徒刑ニ  
處ス

第三百三十九條  
幼者老疾者ヲ遺棄シ  
因テ癱疾ニ致シタル  
者ハ輕懲役ニ處シ篤  
疾ニ致シタル者ハ重  
懲役ニ處シ死ニ致シ  
タル者ハ有期徒刑ニ  
處ス

第三百四十條

自己ノ所有地又ハ看  
守ス可キ地内ニ遺棄  
セラレタル幼者老疾  
者アルコトヲ知テ之ヲ  
扶助セス又ハ官署ニ  
申告セサル者ハ十五  
日以上六月以下ノ重  
禁錮ニ處ス  
若シ疾病ニ罹リ昏倒  
スル者アルコトヲ知テ  
扶助セス又ハ申告セ  
サル者亦同シ

第十節 幼者ヲ畧取  
誘拐スル罪

第三百四十一條

十二歳ニ滿タサル幼  
者ヲ略取シ又ハ誘拐  
シテ自ラ藏匿シ若ク  
ハ他人ニ交付シタル  
者ハ二年以上五年以  
下ノ重禁錮ニ處シ十  
圓以上百圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス

第三百四十二條

十二歳以上二十歳ニ  
滿サル幼者ヲ略取シ  
テ自ラ藏匿シ若クハ  
他人ニ交付シタル者  
ハ一年以上三年以下  
ノ重禁錮ニ處シ五圓  
以上五十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス其誘拐シ  
テ自ラ藏匿シ若クハ  
他人ニ交付シタル者  
ハ六月以上二年以下  
ノ重禁錮ニ處シ二圓  
以上二十圓以下ノ罰



○神奈川縣 十五年二月十七日伺。同年三月二日付  
自己ノ養育子ヲ略シ又ハ和誘シテ外國人へ交付セシ者處罰方刑  
法中ニ明文無之様被考候處右ハ如何相心得可然ヤ  
指令伺ノ趣刑法第三百四十五條ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘ  
シ

第三百四十四條  
前數條ニ記載シタル  
罪ハ被害者又ハ其親  
屬ノ告訴ヲ待テ其罪  
ヲ論ス但畧取誘拐セ  
ラレタル幼者式ニ從  
テ婚姻ヲ爲シタル時  
ハ告訴ノ効ナシ

○神奈川縣 十五年二月十七日伺。同年三月二日付  
自己ノ養育子ヲ略シ又ハ和誘シテ外國人へ交付セシ者處罰方刑  
法中ニ明文無之様被考候處右ハ如何相心得可然ヤ  
指令伺ノ趣刑法第三百四十五條ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘ  
シ  
(理由) 刑法第三百四十五條ハ他人ノ子孫ニ係ル者ナルヘシ  
ト雖モ人ト云フ明文モ無之ニ付若シ伺面ノ如キ犯者アルハ  
ハ右同條ニ依リ處分シ妨ケナカルヘシ

第三百四十五條  
二十歳ニ滿サル幼者  
ヲ畧取誘拐シテ外國  
人ニ交付シタル者ハ  
輕懲役ニ處ス



○姫路始審廳判事

(十四年十二月二日請訓) 十五年一月十九日内訓

第三百四十六條雜姦及ヒ暴行脅迫ナキ輪姦モ猥褻ノ所行中ニ包含シタル者ト解釋スルヲ得ヘキヤ果シテ然ラハ暴行脅迫ナクシテ十二歳以上ノ男女ヲ雜姦又ハ輪姦シタル者ハ本條及ヒ次條ニ其明文ナキヲ以テ不問ニ付シ若シ其所爲公然ナル時ハ第三百五十八條ニ依リ双方ノ者ヲ處罰スルニ止マル歟

内訓意見ノ通但輪姦ハ必ス暴行脅迫アルモノトス

(理由) 清律ニ依レハ輪姦ハ強姦ヨリモ暴惡ノ者トシテ解セリ故ニ脅迫ナキハ幾人ト姦スルモ和姦ニシテ輪姦ト異ナルヘシ因テ但書ヲ加フ

○時給出願 十五年二月十日同 〇時給出願 十五年二月十日同

第十一節 猥褻姦淫

重婚ノ罪

第三百四十六條

十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上六年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條

十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條

十二歳以上ノ婦女ヲ  
強姦シタル者ハ輕懲  
役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏  
睡セシメ又ハ精神ヲ  
錯亂セシメテ姦淫シ  
タル者ハ強姦ヲ以テ  
論ス

此ノ條ニ於テハ  
強姦ノ要件ニ  
精神ノ錯亂ヲ  
要スルコトヲ  
示ス

第三百四十九條

十二歳ニ滿サル幼女  
ヲ姦淫シタル者ハ輕  
懲役ニ處ス若シ強姦  
シタル者ハ重懲役ニ  
處ス

第三百五十條

前數條ニ記載シタル  
罪ハ被害者又ハ其親  
屬ノ告訴ヲ待テ其罪  
ヲ論ス

前數條ニ記載シタル  
罪ハ被害者又ハ其親  
屬ノ告訴ヲ待テ其罪  
ヲ論ス

第三百五十一條

前數條ニ記載シタル  
罪ヲ犯シ因テ人ヲ死  
傷ニ致シタル者ハ毆  
打創傷ノ各本條ニ照  
シ重キニ從テ處斷ス  
但強姦ニ因テ癱篤疾  
ニ致シタル者ハ有期  
徒刑ニ處シ死ニ致シ  
タル者ハ無期徒刑ニ  
處ス

前數條ニ記載シタル  
罪ヲ犯シ因テ人ヲ死  
傷ニ致シタル者ハ毆  
打創傷ノ各本條ニ照  
シ重キニ從テ處斷ス  
但強姦ニ因テ癱篤疾  
ニ致シタル者ハ有期  
徒刑ニ處シ死ニ致シ  
タル者ハ無期徒刑ニ  
處ス

第三百五十二條

十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○滋賀縣 十五年一月十五日伺。同年二月十日付 第三百五十三條有夫ノ婦トハ人ノ妻タルモノ、事ニシテ妾ハ包合セサルヤ如何

○新發田支廳檢事 (十四年九月七日請訓) (十五年十月七日内訓)

刑法第三百五十三條ニ掲グル所爲若シ既ニ離婚ノ後ニ於テ發覺シ前ノ本夫之レヲ告訴シタル時ハ既ニ婚姻ヲ解キタルヲ以テ該條ニ依リ處分スヘキモノニ無之哉又ハ現ニ夫婦間ニ在テ犯セル所爲ニ付其告訴ハ有効ノモノニ候哉 若シ其告訴ノ効アル時ハ其姦婦既ニ離婚ノ後他ニ婚嫁シタル場合ニ於テモ當時ノ本夫ニ於テ異議ノ有無ニ掲ハテ本法ニ依テ處斷スヘキモノニ可有之哉 内訓告訴ノ効ナキモノトス 十六年二月十四日付ヲ以テ左ニ改正 内訓告訴ノ効アル者トス

第三百五十三條

有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ 此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

○愛媛縣 十五年二月十九日伺。全年二月六日付。
第一項爰は公然媒妁を以て婚姻をハ養子養女を取組ナシ既ニ
引越シタルモ籍ノ送受ヲ怠リ未タ双方ノ戸籍簿ハ加除セサルモ
ノ刑法第三百五十三條及ヒ第三百五十四條第三百六十二條第三
百六十五條迄ノ各條ヲ犯シタル者アルハ今後モ明治十年六月
十九日御省丁第四十六号御達ニ基キ處分シ可然哉
指令伺之通

第三百五十四條
配偶者アル者重テ
婚姻ヲ爲シタル時ハ
六月以上二年以下ノ
重禁錮ニ處シ五圓以
上五十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

○愛媛縣 十五年二月十九日伺。全年二月六日付。
第一項爰は公然媒妁を以て婚姻をハ養子養女を取組ナシ既ニ
引越シタルモ籍ノ送受ヲ怠リ未タ双方ノ戸籍簿ハ加除セサルモ
ノ刑法第三百五十三條及ヒ第三百五十四條第三百六十二條第三
百六十五條迄ノ各條ヲ犯シタル者アルハ今後モ明治十年六月
十九日御省丁第四十六号御達ニ基キ處分シ可然哉
指令伺之通

第二項媒妁ナシ私通ノ末夫婦ノ契約ヲナシ而シテ後チ双方ノ父
母親戚ニ婚姻ノ事ヲ談スルニ許諾セサルヨリ男婦互ニ家ヲ脱シ
近郷或ハ同町村内ニ一小屋ヲ借り夫婦同様ノ暮シナシ數日月
又ハ數年ヲ經ル者無之ヲ保シ難シ右等ノ者衆人夫婦ト看認ムル
モ前述ノ如ク父母親戚ノ教令ニ背キタル者ナレハ更ニ親子等ノ
交際セズ又戸籍ノ送受ヲ爲サル者前條ニ記載スル罪ヲ犯シタ
ルハ取扱如何相心得可然ヤ
指令凡人ヲ以テ取扱フヘシ

○福島裁判米澤支廳檢事 (十四年十二月廿二日伺)
十五年二月十六日付
刑法第三百五十四條配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルハ云々

猥褻淫重婚ノ罪

下有之候處公命某ノ妻ナリト見認ル婦アル者又一婦ヲ娶リタル  
モ前婦未タ婚姻ノ式ヲ行ハス又戸籍ニモ記載無之場合ニ於テハ  
重婚ヲ以テ論スヘカラサル者カ果シテ然ラハ未タ婚姻ノ式ヲ行  
ハサル者ハ仮令他ト姦通スルモ有夫姦ノ例ニアラサルカ

指令婚姻シタル後未タ戸籍ニ登記セサルモ實際妻ト信認スル  
所ニ從テ處分スヘシ

(理由)本省明治十年丁第四十六号達中太政官御指令ニ伺ノ  
通八年第二百九号ノ諭達後登記ヲ怠リシ者アリト雖モ己ニ

親屬近隣ノ者モ夫婦若クハ養父子ト認メ裁判官ニ於テモ其  
實アリト認ムル者ハ夫婦若クハ養父子ヲ以テ論スヘキ儀ト

相心得ヘシトアルヲ以テ本文ノ如シ

○熊本輕罪廳檢事 十五年十月十日伺。全月十四日付電報  
配偶者アルモノ父ノ申付ニ由リ重テ婚姻ヲ爲シタル者アリ右

ハ刑法第三百五十四條ニヨリ配偶者アル者ノミ罰シ教唆者ハ罰  
セサルヤ

指令本月十日電報伺果シテ教唆者ナレハ罰ス  
○五所河原治安廳檢事代發部 (十五年九月十三日請訓)  
全年十月廿八日內訓

六頁百九十九  
刑罰法  
第三百五十四條  
重婚ノ罪  
凡ハ夫ノ存スル中ニ又ハ妻トシテ婚姻スル者ハ刑ニ付ス  
凡ハ夫ノ存スル中ニ又ハ妻トシテ婚姻スル者ハ刑ニ付ス  
凡ハ夫ノ存スル中ニ又ハ妻トシテ婚姻スル者ハ刑ニ付ス

刑法第三百五十四條重婚ノ罪トハ假令ハ外國ニ在テ兩妻ヲ娶リ  
而シテ其地ニ自首シ其國土ニ於テハ其所爲ヲ罪トセサルヨリ無  
罪ノ裁判ヲ經テ其儘兩妻ヲ攜帶シ歸國シタル日本人アルキハ日  
本ニ於テ本條ノ罪アリトシテ糾治スルハ勿論ノ儀ト存可然ヤ元  
來右ノ如キモノモ萬有之間敷トハ被考候ヘ共月歲ニ外交開通決  
シテ之レナキヲ豫シ難シ若シ有之トセンカ一罪再罰セサルハ刑  
法ノ原則ナリトノ論者モ有之候得共沈吟スルニ刑ハ將來ヲ罰ス  
ルモノニアラスシテ過去及現下ノ所爲ヲ罰スルニ過キサル理ヨ  
リ推窮スルニ若シ無罪ノ裁判ヲ受ケ來レル者ナルニモセヨ日本  
ニ於テ現ニ法律ヲ犯シ居ル者ニシテ其日本ニ來レル後ノ事ヲモ  
無罪ナリト外地ニテ判ヲ受ケタル者ニアラス又決シテ判スヘキ  
理由無之儀ニ付第三百五十四條ニヨリ處斷スヘキ儀ト心得可然  
ヤ

指令伺ノ趣ハ現ニ事實ノ生シタル場合ニ於テ更ニ伺出ヘシ

○札幌本廳 十四年十月廿四日問合。全年十一月十四日回答  
告訴人ニ於テ假令ハ陰ニ他人ニ依囑シ強テ彼レ(被告人)ヨリ物  
品ヲ買込ミ又ハ賣渡タル杯公庭上ニ於テ陳述セシメ或ハ彼レ  
上全ヨリ財産ヲ盜ミ取ラレタリト飽迄相争ヒ徹頭徹尾主張スル  
等其利慾ヲ逞センコト謀ルニ出ルカ將タ私怨等ニ因由スルモノ  
歟其狀千態萬狀ナリト雖モ其反對ノ歸スル處ハ自然被告人ヲ陷  
害スル者ニ外ナラサルヲ以テ如斯モノハ直ニ誣告ト爲シ可然哉  
回答人ヲ陷害スルノ意ヲ以テ不實ノ事ヲ申立タルモノハ総テ  
誣告ト爲シ可然  
(理由)右ハ誣告ヲ以テ犯罪ノ主タル目的ト爲シタルト他ノ  
罪ヲ犯スカ爲メニ誣告ヲ爲シタルトナ問ハス人ヲ陷害スル  
ノ意ヲ以テ不實ノ事ヲ申立タルモノナレハ総テ誣告トス  
故ニ詐テ財産ヲ盜取セラレタルト申立ルカ如キハ或ハ人ノ  
財産ヲ奪取スル爲メノ方法タルニ過キスト雖モ亦誣告ノ刑  
ニ處セサル可カラズ

第十二節 誣告及ヒ  
誣毀ノ罪  
第三百五十五條  
不實ノ事ヲ以テ人ヲ  
誣告シタル者ハ第二  
百二十條ニ記載シタ  
ル偽證ノ例ニ照シテ  
處斷ス

○白河始審廳判事 十五年六月十五日伺。全月廿二日付  
刑法第三百五十五條不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二  
百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

誣告及ヒ誣毀ノ罪

二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ストアリ而第二百二十條ニハ重罪輕罪違警罪ノ制裁アリ然ルニ依ヘハ甲者ニ於テ乙者ニ對シ怨恨ヲ狹ミ或ハ妬忌ノ情ニ因リ乙者ヲ他ノ法律規則鳥獸獵規則又ハ酒造規則ノ類)ヲ犯シタリト誣告セシ如キハ其甲者ヲ處斷スルハ仍ホ第二百二十條第二項第三項ノ例ニ依ル可キ乎

指令伺ノ通

但輕罪ト違警罪トヲ區別スルニハ明治十四年第七十二号布告第一條ヨリ第三條迄ノ規則ニ從フヘシ

○群馬縣 十五年十二月廿六日伺。全月廿八日付電報。警察費支出相當ナルモ之ヲ不正當トナシ詐偽取財ノ告訴ヲ爲シ又ハ警部ニシテ行政上巡查ヲ喚問スルコト之ヲ監禁ナリト告訴テ檢事起訴アリタル後豫審判事ニテ免訴ノ言渡シズリタル時ハ前ノ告訴者ハ無實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告スル刑法第三百五十五條ノ犯罪ニ相當ス可キ哉。指令十二月廿六日附電報伺之趣故意出テタル者ハ伺之通

但輕罪ト違警罪トヲ區別スルニハ明治十四年第七十二号布告第一條ヨリ第三條迄ノ規則ニ從フヘシ  
○群馬縣 十五年十二月廿六日伺。全月廿八日付電報。警察費支出相當ナルモ之ヲ不正當トナシ詐偽取財ノ告訴ヲ爲シ又ハ警部ニシテ行政上巡查ヲ喚問スルコト之ヲ監禁ナリト告訴テ檢事起訴アリタル後豫審判事ニテ免訴ノ言渡シズリタル時ハ前ノ告訴者ハ無實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告スル刑法第三百五十五條ノ犯罪ニ相當ス可キ哉。指令十二月廿六日附電報伺之趣故意出テタル者ハ伺之通



○青森縣 十五年十月十六日詔訓。同月廿一日内訓電報  
刑法第三百五十六條ノ推問トハ司法警察官現行犯ヲ假ニ訊問ナ  
シタルヲモ包含スルヤ  
内訓刑法第三百五十六條ノ推問ニ付請訓ハ見込ノ通

第三百五十六條  
誣告ヲ爲スト雖モ被  
告人ノ推問ヲ始メサ  
ル前ニ於テ誣告者自  
首シタル時ハ本刑ヲ  
免ス

第三百五十七條  
誣告ニ因テ被告人刑  
ニ處セラレタル時ハ  
第二百二十一條第二  
百二十二條ニ記載シ  
タル例ニ照シテ處斷  
ス

○鹿兒島始審廳判事

十五年二月廿二日何  
同年七月十四日付  
刑法第三百五十八條ニヨリ讒謗律ハ自然消滅セシモノニ候哉  
指令重復スル事件ニ付テハ何ノ通

○鹿兒島縣警部

十五年九月廿一日請訓。同年十月三日付  
第三百五十八條第一ノ公然ノ演說云々ハ其言說ノ想像又ハ傳說  
等ニ區別ナキヤ

又々本條ノ一事醜行ヲ摘發シテ云々ト謂フノ意ハ其未タ發覺セ  
サルノ陰事ヲ公示スルヲ以テ罪源トナスニ似タリ然ラハ事既ニ  
發シテ人ノ知ル所ト爲リタル所爲(仮令ハ酒ニ酔テ路上ニ喧噪  
シ又ハ顛倒シテ醜態ヲ極メ又ハ途ニ鬭爭シ公然猥褻ノ所行ヲナ  
シテ罪ヲ犯シタル者ノ類)ハ假令演說ヲ以テシ書類圖書ヲ以テ  
スルモ唯其原情ヲ寫ス者ニシテ摘發ト云フヲ得ス如斯ハ如何程  
其行爲ヲ誹難スル本條ノ問フヘキ限リニアラサルヤ  
指令前項公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ  
問ハス第三百五十八條ニヨリ處分スヘキ者ニ付想像ヲ以テ誹  
毀スルモ又傳聞ヲ以テ誹毀スルモ均シク同條ニヨリ處分セサ  
ルヲ得サル者トス

第三百五十八條

惡事醜行ヲ摘發シ人  
ヲ誹毀シタル者ハ事  
實ノ有無ヲ問ハス左  
ノ例ニ照シテ處斷ス  
一公然ノ演說ヲ以テ  
人ヲ誹毀シタル者  
ハ十一日以上三月  
以下ノ重禁錮ニ處  
シ三圓以上三十圓  
以下ノ罰金ヲ附加  
ス  
二書類圖書ヲ公布シ  
又ハ雜劇偶像ヲ作

後項既ニ人ノ耳目ニ觸レタル事柄ト雖モ刑法第三百五十八條  
ニ記載スル手段ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ勿論同條ニヨリ處  
分セサルヲ得ス

○名古屋始審廳判事  
十五年十月 日質議  
同年十一月二日回答  
刑法第三百五十八條ニ惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ  
事實ノ有無ヲ問ハス云々トアリ若シ被告人初メヨリ無根ノ事ヲ  
ルヲ以テ之ヲ摘發スルモ本條ヲ以テ論スルカ  
回答御見込ノ通

爲シテ人ヲ誹毀シ  
タル者ハ十五日以  
上六月以下ノ重禁  
錮ニ處シ五圓以上  
五十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス

第三百五十九條  
死者ヲ誹毀シタル者  
ハ誣罔ニ出タルニ非  
サレハ前條ノ例ニ照  
シテ處斷スルヲ得  
ス

誣告及ヒ誹毀ノ罪  
第三百五十九條  
死者ヲ誹毀シタル者  
ハ誣罔ニ出タルニ非  
サレハ前條ノ例ニ照  
シテ處斷スルヲ得  
ス

第三百六十條  
醫師藥商穩婆又ハ代  
言人辨護人代書人若  
クハ神官僧侶其身分  
職業ニ於テ委託ヲ受  
ケタル事ニ因リ知得  
タル陰私ヲ漏告シタ  
ル者ハ誹毀ヲ以テ論  
シ十一日以上三月以  
下ノ重禁錮ニ處シ三  
圓以上三十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス但裁判  
所ノ呼出ヲ受ケテ事  
實ヲ陳述スル者ハ此

第三百六十條

第三百六十條  
醫師藥商穩婆又ハ代  
言人辨護人代書人若  
クハ神官僧侶其身分  
職業ニ於テ委託ヲ受  
ケタル事ニ因リ知得  
タル陰私ヲ漏告シタ  
ル者ハ誹毀ヲ以テ論  
シ十一日以上三月以  
下ノ重禁錮ニ處シ三  
圓以上三十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス但裁判  
所ノ呼出ヲ受ケテ事  
實ヲ陳述スル者ハ此



第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條

子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス  
其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

○名古屋始審廳判事 (十五年十月 日假議)

刑法第三百六十三條子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ云々トアリ若シ其毆打シテ傷ヲ成サス違禁罪ニ該ル者モ本條ニヨリ加等スヘキカ  
回答加等スルノ限ニアラス

第三百六十三條

子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ處シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條

子孫其祖父母父母ニ  
對シ衣食ヲ供給セス  
其他必用ナル奉養ヲ  
缺キタル者ハ十五日  
以上六月以下ノ重禁  
錮ニ處シ二圓以上二  
十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス因テ疾病又ハ死  
ニ致シタル者ハ亦前  
條ノ例ニ同シ

第三百六十五條

祖父母父母ニ對シタ  
ル殺傷ノ罪ハ特別ノ  
宥恕及ヒ不論罪ノ例  
ヲ用フルヲ得ス但  
其犯ス時知ラサル者  
ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對ス

ル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條

人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○長岡始審廳

(十五年二月廿七日請訓 全年三月十五日內訓電報)

鎖鑰ナク戸障子ヲ開キ人ノ家宅内ニ忍ヒ入り金錢物品等ヲ窃取スルモノハ刑法第三百六十六條ニ依テ處斷スヘキモノ乎又ハ第三百六十八條門戸ヲ踰越スルモノニ依リ處斷スヘキ乎

内訓竊盜罪處斷方請訓ノ趣ハ刑法第三百六十六條ニヨリ處斷スヘキ儀ト心付ヘシ

○秋田縣 十五年四月十七日伺。全年五月五日付

玆ニ他ノ山林ニ立入り立木又ハ立木ノ枝ヲ盜伐シタル者アリ其伐木未ク他ニ運搬セサルモ刑法第三百七十三條ヲ適用シ可然哉將タ未タ費用セサルヲ以テ未遂犯罪ノ例ニヨルヘキカ

指令前段伺之通

○前橋輕罪廳檢事

(十五年四月廿九日請訓 全年五月八日內訓)

凡ソ外園ノ有無及ヒ物種ノ如何ニ拘ハラズ人ノ邸内ニアル物(菜葉其他)ヲ窃取シタルモノハ刑法第三百六十六條ヲ適スヘキモノト心得可然哉

内訓請訓ノ趣塙園ナキ邸内ノ菜葉ヲ取去ルモノ概ニ刑法第三百六十六條ニヨリ處分スヘキモノニ非ス但塙園アル邸内ト雖

モ實際竊盜ト信認スヘキ情狀アル者ニ非サレハ罪ヲ問フノ限リニアラス

○能代治安廳 十五年四月十八日請訓。全年五月十日內訓

公道或ハ鄉村共有ニ屬スル地ニ於テ土石草等ヲ取ルモノ違警罪中具明文モ無之又輕罪部中ニモ別ニ正條不相見右等ノ犯者ハ不問ニ置キ可然哉

内訓道路等ニ於テ些少ノ土石草ノ類ヲ取リタル者ハ見解ノ通

不問ニ置クヘシト雖モ實際ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ト信認ス

ヘキ場合ハ刑法第三百六十六條并ニ第三百七十二條ニ照シ處

分スヘキモノトス

○静岡始審廳檢事 十五年四月廿八日伺。全年五月十日付

爰ニ他人ノ所有タル田土ヲ掘取リ自己ノ家宅内ニ搬運シテ地上ケヲナスモノアリ被害者之ヲ通知シ以テ告訴セリ依テ一應捜査ヲ遂クルニ其實ナルヲ認了ス然ルニ刑法上之ニ擬スヘキ適條ナキモノ、如シ其ハ宜シク竊盜罪ナリトセンカ刑法第三百六十六條ハ顯ラ動産ニ係ル物品ヲ指セシモノニシテ本件ニハ適シ得ヘキモノニアラスト見解セラレハナリ抑モ田野ニマレ山林ニマ

レ産物ノ蕃殖ヲ計ラントスルニハ必ラス先ツ土壤ノ保護ナカル  
ヘカラス苟モ其保護ヲ欠ケハ恐ラクハ産物擧テサルナリト云フ  
モ敢テ不可ナカルヘシ蓋シ土壤ハ主ナラン産物ハ從ナラン其主  
タル土壤ニ害アルノ所爲ヲ刑セスシテ從タル産物ヲ竊取スルノ  
所爲ヲ刑スルハ第三百七十二條第三百七十三條ノ明文アリテ權  
衡穩カナラサルヲ覺ユルナリ且ツヤ他人ノ所有權ヲ侵害スルニ  
至リテハ彼是其理一ナリ夫レ然リ然ラハ何ソ本件ノ如キモ之ヲ  
刑セサルヲ得サルモノニ似タリ去リナカラ今ヤ新法典ハ舊法典  
ノ如ク比附援引ヲ許サ、レハ總則第二條ニ據リ不問ニ付スヘキ  
カ果シテ不問ニ付シ置クハ自然猶兇兇々出之ニ效ヒ其意ヲ違  
フスルヲ或ハ保タルヘカラス終ニ社會ノ公益ヲ茶毒スルノ結果  
ヲ見ル亦知ルヘカラス豈ニ思ハサルヘケンヤ旁疑惑ノ感有之ニ  
付相伺候條處分上如何相心得可然哉  
指令伺ノ趣他人ノ所有ナル田土ヲ掘取リタル者ト雖モ盜情ニ  
出テタルハ刑法第三百六十六條ニヨリ又ハ場合ニ因テハ第  
三百七十七條ニヨリ處斷ス可キ儀ト心得ヘシ  
(理由) 刑法第三百六十六條ハ他人ノ所有物ヲ竊取シタル者

一般ニ罰スルノ律意ニテ動産不動産ニ就テ區別セサルナリ  
○秋田始審廳檢事 (十五年五月十二日請訓) 全年全月二十日內訓  
刑法第三百六十六條ニハノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト  
爲シ云々トアリ今茲ニ他人ノ所有地田圃等ヨリ泥土ヲ掘取ルモ  
ノアリ泥土ノ如キハ物件又ハ物産トモ一概ニ稱号スル能ハス然  
レレ己ニ七八畝位掘取リ運搬シタルモノナレハ第四百十八條毀  
壞シタル罪トモ異ナリ竊盜ノ情アルモノナレハ泥土ト雖モ一ノ  
物件ト同シク第三百六十六條ニヨリ處斷スヘキモノナルカ將々  
民事賠償ニ止マルモノ乎  
内訓竊取ノ情アルモノハ前段見解ノ通  
(一) 福島縣廳檢事 十五年六月十五日請訓。全月廿四日內訓  
錢ニ某甲ナル者乙(犯人) 某ト謀リ其父ノ金百圓ヲ竊取シ五十圓  
宛分贈シタルノ所爲發覺ス甲ハ刑法第三百七十七條ニ依リ罪ト  
ナラスシテ乙ハ同條末項ニ依リ竊盜ノ罪ヲ論スヘキナク其乙ノ  
罪ヲ論スルニ當リ二人以上コテ犯シタルモノトセンカ其一人ハ  
親屬ニ係リ罪トナラサレハ甲ニ對シテハ犯ノ字ヲ下スヲ得ス  
依テ一人ニテ犯シタルモノトシ第三百六十六條ヲ適用シ第二百

竊盜ノ罪



六十九條ニ擬スルヲ得サルモノト存候へ共疑義決シ兼仰御内訓候也

内訓請訓ノ趣乙者ニ付テハ刑法第三百六十六條第三百六十九條ヲ適用スル儀ト心得ヘシ

○高松始審廳檢事 十五年十月二日伺。全月十六日付  
玆ニ甲者アリ虎列刺病ニ罹リ法ニヨリ其病毒ニ汚染シタル衣類數枚ヲ燒棄セントシテ乙者ヲ雇ヒ其事ヲ爲サシム巡查之レヲ監視シテ定マリシ場所ニ至ル此際乙者巡查ノ眼ヲ偷ニ右衣類ノ内一枚ヲ窃ガニ懷ニシタル際事發覺セリ右乙者ノ所爲ハ稍竊盜ニ等シキカ如シト雖モ右衣類ハ既ニ廢棄物ニ係ルヲ以テ相當消毒ノ法ヲ行ハサレハ再ヒ用ニ堪ユヘキモノニ非ス然リ而シテ其所有主タル甲者ニ於テ既ニ之ヲ燒棄スヘシト決意シ乙者ハ渡シタル以上ハ其時甲者ノ所有權ハ脱却シタルニヨリ以後何人カ之ヲ占有スルモ敢テ盜トナス可カラス然リト雖モ該品ハ既ニ傳染病毒ニ汚染セシ品ナルニヨリ消毒法ヲ行ハサレハ再用又ハ授受賣買等ナス可ラサルモノニ付猥リニ所有スルヲ得サルハ勿論ニ有之夫レ如此ナルニヨリ乙者カ所爲ニ因テ其害ノ及フ所ハ畢竟

病毒ノ傳播ニアリテ之ヲ防グノ制裁モ亦豫防法ノ外ナラス或ハ之ヲ竊盜トナサンカ既ニ廢棄物ナルヲ以テ被害者ノアルヲナシ故ニ乙者ハ明治十三年第三十四號布告傳染病豫防規則ニ違犯シタル刑ニ處スルヲ犯罪ノ性質ニモ適シ穩當相考候得共云々  
指令伺ノ趣竊盜ヲ以テ論スル儀ト心得ヘシ

第三百六十七條  
水火震災其他ノ變ニ  
乘シテ竊盜ヲ犯シタ  
ル者ハ六月以上五年  
以下ノ重禁錮ニ處ス

○鹿兒島始審廳判事  
十五年二月廿二日何  
同年七月十四日付  
第三百六十八條鎖鑰ヲ開クトハ所謂錠前ヲ開クニテ錠ヲ開キ  
或ハ捻チ切り或ハオトシテ掲ケサルヲ脱シ張ッ棒ヲ脱ス等家人  
其法ヲ以テスルニ非サレハ容易ニ開クヘカラサルヲ開クヲ云フ  
義ニテ唯平生人家不在等ニ際シ門戸或ハ戸障子等ノ閉チタルヲ  
開キテ行フタル者ニハ及ハサル義ト解シ可然哉果シテ然リトセ  
ハ甲家夜中門戸ヲ閉シカキカ子等ヲナスコト忘レタリシニ之ヲ  
窺ヒ門戸ヲ開キテ行フタル罪ノ如キハ第三百六十六條ニヨリ可  
然ヤ

第三百六十八條  
門戸牆壁ヲ踰越損壞  
シ若クハ鎖鑰ヲ開キ  
邸宅倉庫ニ入り竊盜  
ヲ犯シタル者ハ亦前  
條ニ同シ

○鹿兒島始審廳判事  
十五年七月廿五日何  
同年九月十四日何  
第三百六十八條門戸牆壁ヲ踰越損壞シ鎖鑰ヲ開キ竊盜ヲ犯  
シタル者ヲ以テ論スヘキモノニアラス  
○感岡始審廳檢事  
十五年七月廿五日何  
同年九月十四日何  
刑法第三百六十八條門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ邸宅  
倉庫ニ入りタル者ハ一切ノ建造物ノ外圍ノ門戸カ將ヲ破リ入  
ル市中ニテ別ニ門戸牆壁等ヲ設クル者無之天井窓杯ヲ破リ入

指令伺ノ通

（理由）伺ノ如キハ普通ノ窃盜ヲ以テ論スヘキ者ニシテ刑法  
第三百六十八條門戸牆壁ヲ踰越損壞シ鎖鑰ヲ開キ竊盜ヲ犯  
シタル者ヲ以テ論スヘキモノニアラス  
○感岡始審廳檢事  
十五年七月廿五日何  
同年九月十四日何  
刑法第三百六十八條門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ邸宅  
倉庫ニ入りタル者ハ一切ノ建造物ノ外圍ノ門戸カ將ヲ破リ入  
ル市中ニテ別ニ門戸牆壁等ヲ設クル者無之天井窓杯ヲ破リ入

竊盜ノ罪

リタル者ハ塙壁ヲ損壞スルノ内ニ合スルモノカ  
内訓邸宅倉庫ノ外圍ニ限ラズ天井ハ勿論窓ト雖モ外部ノ締リ  
ヲ爲スモノヲ踰越損壞シタルモノハ刑法第三百六十八條ニヨ  
ル

○前橋始審廳檢事

(十五年十二月十一日質問)  
同月廿二日 答回

第四拘摸犯罪ノ如キハ假令數名ノ同夥現場ニアリテナシタルモ  
ト雖モ刑法第三百六十九條ヲ適用スルノ限ヨアラサルカ  
回答第四二人以上共犯ノ情狀アル者ハ刑法第三百六十九條ヲ  
適用ス

第三百六十九條

二人以上共ニ前三條  
ノ罪ヲ犯シタル者ハ  
各一等ヲ加フ

○松本始審廳檢事 (十五年六月十二日請訓)

茲ニ盜犯アリ人ノ邸内ニアル土藏ヲ破壞スル爲メ出刃庖丁或ハ其他ノ器具ヲ持テ竊ニ之ヲ破リ該器ヲ携帶シテ土藏内ニ忍入リ物品ヲ窃取シタル者ハ刑法第三百六十八條ニ該ルヘキ哉將タ同法第三百七十條ニ該ルヘキモノナリヤ

内訓携帶スル所ノ器具兇器ナルトキハ後段見解ノ通

○前橋始審廳檢事 (十五年十一月廿七日伺)

邸内ニ有ル土藏ノ如キハ假令人ノ住居セサルモ刑法第三百七十條ニ言フ邸宅ニ包含セルカ  
指令見込ノ通

第三百七十條

兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○富山始審廳檢事 (十五年五月廿二日請訓)

甲者乙者ニ對シ巨多ノ材木ヲ抵當ニ請取リ (材木ハ山ヨリ伐出  
繫キア) 若干ノ金圓ヲ貸渡セリ期限内乙者來ツテ材木ヲ他人  
ニ賣却ス甲者其場ニ至リ其事業ヲ止ムルモ不聞入強テ販賣爲  
タルトシテ甲者ハ告訴セリ右ハ刑法第三百九十三條第二項ニ照  
シ動産物ノ掲ケナキヲ以テ起訴ヲ爲スヘキ限リニ非ス其旨通知  
及ヒ置キ候ヘ共尙ホ考フルニ全体動産ハ抵當ニ受クル者ノ手ニ  
領主シ置クハ証明トスルモ右材木ノ如キニ至リテハ我園内ノ人  
取リ得ヘカラス (入ルヨリ得スシテ都合ニ寄り看守人ヲ付  
主藏ノ類ヲ云フ) 入ルヨリ得スシテ都合ニ寄り看守人ヲ付  
ケルモ前陳ノ所業ヲ爲スニ至リテハ之ヲ止メ得ヘカラス故ニ該  
物件ノキキヲ抵當ニ受クルハ受クル者ノ注意不注意ニ出テ如斯  
所爲アルモ之ヲ拒制シカラスアルモ如何トモ爲ス可カラ  
ズ結局法律上ヨリ之ヲ論スレハ唯通常 (無抵當ノ貸借ト見做  
借ヲ云フ) 借ヲ云フ  
内訓請訓ノ趣該材木ヲ抵當トシテ請取トアルハ則乙者ヨリ甲  
者ニ交付シタル實アルモノナルニ於テハ刑法第三百七十一條  
ニ依リ處分シ若シ暴行脅迫ノ所爲アルハ第三百七十八條以下

第三百七十一條

自己ノ所有物ト雖モ  
典物トシテ他人ニ交  
付シ又ハ官署ノ命令  
ニ因リ他人ノ看守シ  
タル時之ヲ竊取シタ  
ル者ハ竊盜ヲ以テ論  
ス

ニヨリ處分スヘシ然レモ右ノ材木ハ唯書入トナシタルニ止マ  
 ル時ハ罪ノ問ヘキナシ  
 ◎山田始審廳檢事(十五年一月十五日請訓)  
(同年三月二日内訓)  
 刑法第三百九十三條ニ他人ノ動産不動産ヲ冒認シ又ハ抵當典物  
 ト爲シタル者ハ云々トアルヲ觀シハ抵當ト典物トハ判然其區別  
 アリ又理ニ於テ然ラサルヲ得サルカ如シ而シテ第三百七十一條  
 ニハ典物トノミニシテ抵當ノ二字ナキヲ以テ自己ノ所有物ヲ抵  
 當トナシテ他人ニ交付シタル者之ヲ竊取スルカ如キハ第二條ノ  
 原則ニ依テ罰スヘキモノニ非サル乎然リト雖モ抵當ト典物トハ  
 止テ其結果ヲ異ニスルノミニシテ債主ヘ對スル保證ノ点ニ至テ  
 ハ差違アルニ非サレハ自己ノ所有物ト雖モ抵當トシテ他人ヘ交  
 付シタル後之ヲ竊取スル者ハ罰セサルヲ得サルカ如シ然ルヲ第  
 三百七十一條ニ於テ抵當ノ二字ヲ除キタルハ其理由如何  
 内訓義務ノ保護トシテ他人ニ交付シタル物件ハ典物ナリトス  
 故ニ該物件ヲ竊取シタル者ハ刑法第三百七十一條ニ依テ處斷  
 ス  
 (理由) 抵當トハ義務ノ保護ニ充テタル物件ヲ義務者ノ手ニ

保存シ典物トハ債主ノ手ニ其物件ヲ領置スルモノニシテ二  
 個共ニ民事上保證ノ區別ヨリ來ル名稱ナリトス故ニ典物ト  
 同テ債主ノ手ニ領置セラレタル物件ヲ竊取スレハ刑法第三  
 百七十一條ニ該ル可シト雖モ抵當ノ物件ヲ義務者(則チ物  
 カラ保存ス)自カラ處分シタルハトテ竊盜ノ罪トナラサル  
 ル所有者)ヘシ右ノ理由ナルヲ以テスレハ抵當トシテ他人ニ交付シタ  
 物件ヘ抵當ニ非スシテ其實典物ナルヘキニ付該物件ヲ竊盜  
 シタル者ハ刑法第三百七十一條ニ依リ處斷セラルヘキ也



○若松輕罪廳檢事 (十五年五月廿七日請訓) 全年六月十五日內訓

刑法第三百七十三條ニ山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ云々ト之アリ右竊取ノ已未遂ヲ判定スルハ專ラ實際ノ狀況ニ與ルヘシト雖モ該竹木竊取ノ如キハ全ク根幹相離レタルキヲ以テ已遂トスヘキヤ又ハ本所ヲ離レタルキヲ以テスヘキヤ將タ清律ニ云ヘル如ク未タ駄載セサル間ハ未遂ヲ以テ論スヘキヤ内訓請訓ノ趣實際ノ形狀ニヨリ一概ニ論シ難シト雖モ本件ニ付テハ未段見解ノ通

○三重縣 十五年六月一日電報伺。全月六日付

山林ニ生スル稜ノ儀ハ田畑ノ肥料ニ要用ノ物ニ付之ヲ賣買スル者モ有之故ニ稜ヲ竊盜シタル者ハ刑法第三百七十三條其他ノ產物ヲ竊取シタルノ罪アリト心得可然哉

指令山林ニ生スル稜ヲ竊取シタル者處分方ハ伺ノ通但些少ノ稜ヲ刈取ル者ハ犯罪トナラサル場合アルヘキニ付實際裁判官ノ判定ニアルモノトス

○西郷治安廳判事補 (十五年七月廿八日伺) 全年九月十五日付

採鮑採藻ノ爲メ海面區畫ヲ立テ拜備ヲ願ヒ官ノ許可ヲ得タル場

第三百七十三條

山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

區内ニ入り鮑ヲ採リタル者アリ右ハ營業ニ關スル產物ナレハ刑法第三百七十三條ニヨリ處斷スヘキハ勿論ト存候ヘ其人ノ生養シタル者ニ非サルヲ以テ聊カ疑義ヲ生シ候ニ付相伺候

指令刑法第三百七十三條ニヨリ處分スヘシ

○栃木縣 十五年八月三十一日伺。同年九月八日付

指令其他ノ物產トハ落葉等含蓄セサルハ勿論ナリト雖モ萱稜ノ如キハ其實際ノ景狀ニ依テ含蓄スルコトアルヘシ

○大分縣 十五年十一月廿五日伺。同年十二月八日付

他人ノ共有スル稜場ニ立入り稜ヲ竊取リタル者處分ノ義先キ相伺候處本年九月五日付ヲ以テ竊取ノ情狀アル者ハ刑法第三百七十三條ニ依リ若シ其情狀ナクシテ唯刈取スルニ止マレモノハ第四百十九條ニ依リ處斷スヘキモノトスト御指令相成候處同九月九日付ヲ以テ中津始審裁判所檢事代理檢事補會根俊吉内訓相成タルハ竊盜ノ情狀アル者ハ刑法第三百七十二條ニ依リ處分ス但些少ノ稜ヲ刈取ル者ハ犯罪トナラサル場合アルヘキニ

付實際ノ判定ニ任スル義ト心得ヘシト有之右ハ同質ノ疑義ニシテ御指令ト内訓ト前後抵觸シ取扱上差支候  
 指令伺ノ趣先キノ伺面ニハ單ニ林場トアリテ山林田野ノ區別判然セザレラ以テ刑法第二百七十二條ニ依リ處斷スヘキ者指令及置候得共其山林ト看做ス可キ場所ニ係ル片ハ同條ニ依リ田野ト看做スヘキ場所ニ係ル時ハ第二百七十二條ニ依テ處斷スヘキ義ト心得ヘシ但中津始審裁判所檢事ヘモ爲念右ノ段相達置候

○講本條ノ旨ニ於テハ其ノ旨ニ依リテ處斷スルニ依リテ同質ノ疑義ニシテ御指令ト内訓ト前後抵觸シ取扱上差支候  
 指令伺ノ趣先キノ伺面ニハ單ニ林場トアリテ山林田野ノ區別判然セザレラ以テ刑法第二百七十二條ニ依リ處斷スヘキ者指令及置候得共其山林ト看做ス可キ場所ニ係ル片ハ同條ニ依リ田野ト看做スヘキ場所ニ係ル時ハ第二百七十二條ニ依テ處斷スヘキ義ト心得ヘシ但中津始審裁判所檢事ヘモ爲念右ノ段相達置候

○東京大學校 十五年十一月 日質問。同月廿四日回答  
 第四條牧場ニ於テ鳥獸ヲ竊取シタル者アルハ刑法第三百七十四條中ノ獸類トナシ該條ヲ適用シテ可然乎然ラハ何故ニ獸類トノミナシタル儀ニ候哉  
 回答第四條牧場トハ獸類ヲ畜養スル所ナレハ鳥類ノ在ルヘキ等ナシ若シ牧人ノ畜養等ニ係リ之レアルニ於テハ刑法 第三百六十六條ニ依リ處分ス

第三百七十四條  
 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス



第三百七十五條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

此節ニ記載シタル輕罪ノ例ニ照シテ處斷ス

此節ニ記載シタル輕罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

此節ニ記載シタル罪ノ例ニ照シテ處斷ス

此節ニ記載シタル罪ノ例ニ照シテ處斷ス



第二節 強盜ノ罪

第二百七十八條

人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

○山形始審廳判事 (十五年五月十五日請訓) 同年六月一日内訓  
爰ニ甲ノ博奕ヲ爲シ乙ハ賭ケ金ヲ出ス能ハス所持ノ蒲團ヲ抵當トナシ賭ケ金若干ヲ甲ヨリ借り置キタリ甲ハ屢々返済ヲ促モ應セサルニ付或夜乙ノ家ニ至リ金員ヲ返済セサレハ抵當ノ蒲團ヲ渡スヘシト督促ス乙ハ金員有合セス右蒲團ヲ他ヨリ借り受ケタルモノニ付渡スヲ得スト詐言スルヨリ甲ハ右蒲團ヲ持テ去ラントスルニ當リ乙ハ尙ホ之ヲ拒ミ甲ヲ取押ヘタリ甲ハ該家ノ爐中ヨリ豫シメ捆ミ置キタル灰ヲ乙ノ面部ニ投ケ掛ケ其透キニ蒲團ヲ持去リ之ヲ典賣セリ右ハ其形跡ヲ以テ論スル中ハ暴行ヲ加ヘテ他人ノ所有物ヲ強取シタルモノナリ故ニ刑法第三百七十八條ハチ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタルモノハ強盜ノ罪トナシ輕懲役ニ處ストアルニ適合セリ然レハ強盜ノ性質タルヤ他人ノ財物ヲ強取シ自己ヲ富サントスルニアリ甲ノ如キハ之ト異ナリ假令博奕上ノ貸借ハ法律之レヲ保護セスト雖モ双方合意ニ出テタル貸金ノ抵當物ヲ持去リタルモノナリ因テ甲ノ所爲ハ法律ニ正條ナキ者トシ刑法第二條ニ依リ處分スヘキモノニ可有之哉

内訓請訓ノ趣刑法第三百七十八條ニ依ルヘキ者コアラズ

(理由) 右ハ賭博ノ賭金ヲ出ス能ハサルニ因リ蒲團ヲ抵當トナシタルモノニシテ不正ノ契約タルハ免レスト雖モ雙方ノ合意ニ出テタル者ナレハ其双方間ニ於テハ通常ノ契約ヲ爲シタル者ト異ナルヲナカル可シ畢竟權利者ニ於テ義務者ノ義務ヲ執行セサルニ因リ之ヲ強取シタルニ止ル者ナレハ通常ノ強盜罪ト犯シ強盜者ト全視スル可キ也

其強盜罪ト爲スルハ、賭博ノ金ヲ出ス能ハサルニ因リ蒲團ヲ抵當トナシタルモノニシテ不正ノ契約タルハ免レスト雖モ雙方ノ合意ニ出テタル者ナレハ其双方間ニ於テハ通常ノ契約ヲ爲シタル者ト異ナルヲナカル可シ畢竟權利者ニ於テ義務者ノ義務ヲ執行セサルニ因リ之ヲ強取シタルニ止ル者ナレハ通常ノ強盜罪ト犯シ強盜者ト全視スル可キ也

竊盜ノ罪

○弘前始審廳檢事(十五年九月十九日請訓)

刑法第三百七十九條強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フトアリテ其第二ニ兇器ヲ携帯シテ犯シタル時トアルハ其兇器ヲ表携シテ犯シタル者ニ係リ其暗藏シテ行盗ノ間事主等ニ認知セラレサル兇器ニ至ラハ加一等ノ限ニハ無之儀ニ候哉内訓強盜兇器携帯ノ儀ニ付請訓ノ趣行行盗ノ際事主ニ識認セラレサルモ己ニ之ヲ携帯シタル時ハ一等ヲ加フ可キ者トス(理由)窃盜ハ人ノ目ニ見ヘサル者ナルモ兇器ヲ携ヘレハ加等ノ罪ナリ之ヲ以テ推セハ兇器ヲ携帯シテ強盜ヲ犯ス時ハ其兇器暗藏ニシテ被害者ニ識認セラレサルモ己ニ之ヲ携ヘタル時ハ被害者ノ危険ナルヲ表携シタルニ等シキヲ以テ

第三百七十九條

強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ  
一二人以上共ニ犯シタル時  
二兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

○名古屋始審廳判事(十五年十一月廿七日質問)

刑法第三百八十條ニ強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處スト有之候處右殺傷ストハ現ニ其強盜ヲ行フニ方リ殺傷シタル場合ヲ云フ者ニシテ其強盜ヲ行フニ便利ナル爲メ又ハ己ニ行フニ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ殺傷シタル場合ノ如キハ刑法第二百九十六條又ハ第三百三條ヲ適用スヘキモノナリヤ將々右第三百八十條ハ第二百九十六條第三百三條ノ取除ケ法ナリヤ

第三百八十條

強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

回答強盜人ヲ殺傷スルノ件ニ付御質問ノ通致承知候右ハ後段御意見ノ通但場合ニ依レハ盜ト殺傷トヲ分別セサルヲ得サルコトアル可シト雖モ第三百八十條ハ第二百九十六條三百三條ノ取除ケト御考量有之度候也

第三百八十一條

強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

此條ノ規定ハ強姦罪ノ加重事由ニ屬ス  
強姦罪ノ基本刑ハ無期徒刑ニシテ  
強姦婦女ノ場合ハ無期徒刑ニシテ  
強姦罪ノ加重事由ニ屬ス  
○古語云 強姦婦女者 罪之大者也

強姦婦女ノ場合ハ無期徒刑ニシテ  
強姦罪ノ加重事由ニ屬ス  
○古語云 強姦婦女者 罪之大者也

第三百八十二條

竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉  
迷セシメ其財物ヲ盜  
取シタル者ハ強盜ヲ  
以テ論シ輕懲役ニ處  
ス

第三百八十四條

此節ニ記載シタル罪  
ヲ犯シ減輕ニ因テ輕  
罪ノ刑ニ處スル者ハ  
六月以上二年以下ノ  
監視ニ付ス

○檢事代理和歌山縣警部 十五年四月十四日伺

同月廿六日付

第一條茲ニ河海ニ漂流セシ木材薪炭橋杭等ヨリ或ハ中流ニ漂流シ或ハ欵岸ニ漂着スルヲ他人之ヲ贖見拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セサル者ハ明治八年第六十六号公布漂流物取扱規則第三十六條凡漂着物ヲ見附ケタルモノ之ヲ浦役人ニ報知スルヲナク其物品ヲ私カニ使用シ云々第二十八條ニ照シ處分スヘシ同第二十八條難船ノ節救助ニ托シ船具其他ノ物品ヲ窃盜或ハ掠奪スル者云々律ニ照シテ處分スヘシト有之ニ照依シ處斷スヘキ平然ルニ前顯固ヨリ漂流漂着ノ木材薪炭橋杭等ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セサル者ハ無論竊盜掠奪スルノ意匠ニ出テタルニ外ナラサルヲ以テ苟モ刑法第三百八十五條ニ照據シ處斷致シ可然ヤ

指令後段見込ノ通

第二條前同斷漂流着ノ木材薪炭橋杭等ヲ拾得タルモ隱匿ノ意匠ナキ者ハ明治八年第六十六号公布ニ照依セシテ刑法第三百八十五條ニ正條アルヲ以テ照依スヘキ哉

指令果シテ隱匿ノ意ナキ者ハ罪ノ問フヘキナシ

○浦和始審廳檢事 十五年七月六日質議。全月十三日回答

第三節 遺失物理埋藏

物ニ關スル罪

第三百八十五條

遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十日以上三月以下ノ重一禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

遺失物ヲ拾ヒ得テ事主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者刑法第三百八十五條ニ依リ禁錮又ハ罰金ニ處スルニ當リ其拾得タル物件ハ本人ニ下付シ所轄警察署ニ届出テシム可シト云フ者アリ然ルニ元來其物件ハ犯罪ニヨツテ得タル者ナレハ裁判官ハ所有者ナキ時ハ刑法第四十三條第四十四條ニヨリ本案ノ裁判ト俱ニ沒收ノ言渡シヲ爲シ檢察官ハ本年司法省丙第廿号達ニヨリ裁判所所在地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間所有主ナキ時ハ拾人ニ下付セシ官沒ノ通執行スヘキ者ト思料ス

回答御質議ノ趣右ハ後段御見込ノ通ト存候

○鹿兒嶋縣警部 十五年九月一日請訓。同年十月三日内訓

第五條第三百八十五條遺失及漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ云々遺失物規則ニ關スルニ同ノ遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ主ニ還シ官ニ送ル可シトアリ此五日間ハ假令隱匿ノ實跡アルモ官主送還ノ期限トシテ之ヲ問ハス此期限ヲ過キ則チ六日以上ニ至リ送還ノ手續キヲ爲サハル者(正當ノ事理アル場合ヲ除クノ外)初メテ本條ニ依リ可然ヤ

内訓第五條見込ノ通

遺失物理埋藏物ニ關スル罪

第三百八十六條  
他人ノ所有地内ニ於  
テ埋藏ノ物品ヲ掘得  
テ隠匿シタル者ハ亦  
前條ニ同シ

第三百八十六條  
他人ノ所有地内ニ於  
テ埋藏ノ物品ヲ掘得  
テ隠匿シタル者ハ亦  
前條ニ同シ



第三百八十七條  
此節ニ記載シタル罪  
ヲ犯シタル者第三百  
七十七條ニ掲ケタル  
親屬ニ係ル時ハ其罪  
ヲ論セス

○高田始審廳判事 (十五年五月廿二日質問  
全年六月廿六日回答)

身代限資力調ノ節戸長立會不致 (戸長立會可致公布ハ無之然  
資力ノ段原被告ハ代人共謀シテ戸長ノ與印ヲ請フニ戸長ニ於  
テ立會取調併處相違無之ト記シ與印致シ之ヲ呈シタルニ付民事  
裁判ハ之ヲ證トシ無資力ノ裁判決シタルヲ以テ債主本人ハ數百  
圓ノ金額一錢モ手ニ落テス只勝利ヲ得タル迄ニ有之然ルニ實ハ  
代人等慣レ合有力ヲ無力トナシ各其財ヲ得タルヲ發覺致シ現今  
像審中ニ有之候處右戸長カ立會ハサルニ立會タルト詐リ與書致  
シタルニ依テ裁判所ハ之ヲ信用シ斯クノ通り債主ノ損害ヲ蒙ル  
ニ至ル右ハ戸長ニ於テ惡意ヲ以テ與書爲シタルモノニハアテサ  
レモ如斯有名無實ノ措置致シタル所ヨリ右ノ通り成行タルモノ  
ナレハ之ヲ不問ニ措クヘキモノニハアテサルモノト相考申候右  
ハ行政ノ處分ニ止ルモノナルヤ些ト酷ニ過キ候ヘ共從犯トシテ  
處分スヘキモノナルヤ

回答五月廿二日附書翰ヲ以テ御質問相成候件右ハ戸長ニ於テ  
共謀シ又ハ惡意ヲ以テ與書ヲ爲シタルニ非サレハ刑法ノ問フ  
所ニ非スシテ行政上ノ處分ニ任スヘキ儀ト恩考候

家資分散ニ關スル罪

第四節 家資分散ニ

關スル罪

第三百八十八條

家資分散ノ際其財產  
ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛  
偽ノ負債ヲ増加シタ  
ル者ハ二月以上四年  
以下ノ重禁錮ニ處ス  
情ヲ知テ虛偽ノ契約  
ヲ承諾シ若クハ其媒  
合ヲ爲シタル者ハ一  
等ヲ減ス

第三百八十九條  
 家資分散ノ際牒簿ノ  
 類ヲ藏匿毀棄シ若ク  
 ハ分散決定ノ後債主  
 ナ害シタル者ハ一月  
 以上二年以下ノ重禁  
 錮ニ處ス

第三百八十九條  
 家資分散ノ際牒簿ノ  
 類ヲ藏匿毀棄シ若ク  
 ハ分散決定ノ後債主  
 ナ害シタル者ハ一月  
 以上二年以下ノ重禁  
 錮ニ處ス

○愛媛縣 十五年三月七日電報伺。全月十六日付

馬ノ肉ヲ牛肉ト偽リ販賣スル者ハ詐欺取財ヲ以テ論シ可然哉  
指令馬ノ肉ヲ牛肉ト偽リ販賣シタル者ハ一概ニ詐欺取財ヲ  
以テ論シ難シ

(理由) 審按スルニ馬ノ肉ハ健康ヲ害スヘキ者トシテ健康ヲ  
保護スル規則アレハ刑法第四百廿六條第四ノ正條ニ從ヒ處  
分スヘシト雖モ今其規則ノ設ケ無之ニ付該條ニ因リ處分ス  
ルコトヲ得ス且其事實ニヨリ一概ニ詐欺取財ヲ以テ論シ難シ

○警非輕罪廳檢事 十五年三月二日質問。全月廿八日回答  
爰ニ甲アリ酒肆ヲトシ歸ルニ臨ミ烟艸入ヲ其席ニ遺忘シ去ル乙  
次テ至リ同席ニ就ク肆婦丙其烟艸入アルヲ見テ之ヲ乙ニ示シ所  
有品ナリヤ否ヲ問フニ乙黙シテ之ヲ受取り途中ニテ其中ヲ發キ  
見ルニ金圓若干ノアルアリ其金圓ノ半ハ酒食等ニ費消セリ甲該  
品ヲ遺忘セシコトヲ思ヒ出シ再ヒ酒肆ニ立戻リタル處既ニ乙ニ於  
テ持行タリト聞キ即追跡シ就テ之ヲ責ム乙其所爲ヲ包藏スルト  
雖モ遂ニ蔽フ能ハス其實ヲ吐露セ、然ルニ其初メ黙シテ受取り  
タルハ或ハ同村ノ者共ニ付之ヲ事主ニ送り届クルノ意アルカモ

第五節 詐欺取財ノ  
罪及ヒ受寄財物ニ  
關スル

第三百九十條

人ヲ欺罔シ又ハ恐喝  
シテ財物若クハ證書  
類ヲ騙取シタル者ハ  
詐欺取財ノ罪ト爲シ  
二月以上四年以下ノ  
重禁錮ニ處シ四圓以  
上四十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス  
因テ官私ノ文書ヲ偽  
造シ又ハ増減變換シ

タル者ハ偽造ノ各本  
條ニ照ラシ重キニ從  
テ處斷ス

計ラ金若干雖モ金圓アルヲ見テ初メ詐盜心ヲ生シタルモノナラ  
ザルモ刑法第三百廿六條ニ照シ處スベキ者トシテ同法第三百九  
十條ニヨリ處分スヘキ者トシテ同法第三百九十三條ニ照シ處分シ可然  
哉○海田縣警廳檢事 十五年三月十二日質問。全月二十日回答  
又甲其目前ニ於テ差置ク處ニ所有品ヲ乙無斷ニ持去ラントス依  
テ之ヲ咎ムル處ニ却テ吾所有品ト主張シ去ル甲直ニ之ヲ告  
訴セ、右ノ如キ場合ニ於テ乙ハ如何處分シ可然哉  
回答第二項第五項其檢察官裁判官ニ於テ詐欺ノ情狀アリ者ト  
認定シ、其時ハ刑法第三百九十條ニ依リ得ル刑ヲ得ルモノトシテ  
○延岡治安廳 十五年四月六日質問。全月廿七日内訓  
刑法第三百九十條ニ曰ク人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証  
書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪トナシ云々爰ニ甲者乙者ト  
契約セシ條件アリ未ダ其證書ヲ調フル場合ニ至ラズト雖モ乙者  
入ルヘキ云々カ手筆ノ書東即チ民事上證據ノ端緒トナルモノ  
ヲ甲者ニ寄送シアルニ付甲ヨリ乙ニ向ヒ該約履行スルカ又ハ本  
証書類ヲ調フルカ兩個ノ内ヲ催促スルハ際シ乙ニ於テハ偏ヘテ該約  
ヲ取消サシヨラ求ムレ、甲之ヲ諾セ、故ニ乙巧辨以テ其已レガ

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

手筆書東ヲ甲ヨリ騙取セリ右書東ノ如キハ本條之シカ明文ナ  
 手筆書東ヲ甲ヨリ騙取セリ右書東ノ如キハ本條之シカ明文ナ  
 シバ偽造ニ本條ヲ適用シ可然哉將何假民法止出訴期限ヲ經  
 過セシ證書類ト雖モ之ヲ騙取スル者ハ本條ヲ適用シ可然哉  
 丙訓第一項其見解ヲ通第三項第三百九十九條依テ處斷スル  
 書得テ其見解ハ本條ハ本條ト雖モ之ヲ騙取スル者ハ本條ヲ適用  
 既(理由)第十項ニ所謂書東果圖ラ乙者必自筆ニ係成テ固  
 ○ 專權義務ヲ成立シ其後證ト既ニ是及基者所屬ヲ以テ  
 騙取之ヲ騙取スル者ハ刑法第三百九十條ヲ以テ處斷セサルヲ得  
 同條第三項出訴期限ヲ經過シ其後證書ハ即反否然リ果シテ  
 然ラハ之ヲ騙取スルモノ固ヨ無効犯ニ以テ恰モ人ヲ謀殺殺  
 テ之セザルハ其罪類ハ殺殺ト雖モ其罪類ハ殺殺ト雖モ其罪類ハ殺殺  
 又甲證書類ヲ騙取スルモノト同視スルコト得テ其後證書ハ即反否然  
 ○ 秋田始審廳檢事 十五年五月十二日請訓。 全月二十日內訓  
 甲ハ乙ニ賣與シタル田地未登記地券名前書換前甲ヨリ丙ニ書入抵  
 當義乙以承諾ヲ得甲ノ所有地トシシ戸長ツ與書割印ヲ受乙丙  
 ヨリ金若干借受シ圖ルモノト以テ仮令所有者乙ノ承諾アルモノモセ

て書換ス  
 對ニ照シテ重キニ書  
 入書、承諾ノ本

戸長及債主ニ欺隱シ金ヲ得ルモノハ刑法第三百九十條  
 ヲヨリ詐欺取財ヲ以テ論スル事モ不可有之哉  
 丙訓罪ノ問フニキナリ  
 ○ 宇和島輕罪廳檢事 十五年五月八日何。 同年六月五日內訓  
 爰ニ乙者アリ甲者ノ家ヨリ反古紙幾千ヲ買フ其内ヨリ金何圓右  
 紙ニ預メ候也月日某甲ヲ以テ押印シ甲者ノ父ハ宛テ之ヲ半切紙  
 出タリ乙者之ヲ持テ某甲ニ向テ預金請求ヲ甲者ニ勸メ甲者ハ已  
 ニ事濟シ証シシテ全ク反古紙ト其況スヤ余カ父ハ何某ニ借財ス  
 リ示未返辨セザルニ此ノ如キ自己未貸金ノルコトナキ旨ヲ答  
 ヘテ肯セシ乙者之ヲ懲應シテ己マテ以テ其訴請求ハ代人丙ヲ  
 周旋ス於是甲乙丙其情ヲ示シ相協同シテ金割ヲ得甲者請求高  
 ノ四割ヲ謝金トシテ丙ニ與ヘ丙ト乙ト其四割ノ金ヲ平分セシ  
 ト約セタリ即チ甲者ハ代人丙者ヲ以テ勸解ヲ請願シタル處某甲  
 甲者ハ父ノ金ヲ預リタルニ非ス從前某甲者ノ父父下同シク或  
 ル會社ノ社員タリシニ其會社用金ノ一時仮預メニシテ現今ハ  
 已ニ事濟ナルヲ其假證ノ返却手續ヲ爲サ、リシ者ナリト陳スル  
 モ其證ヲ舉グルル能ハズ遂ニ不調ニ歸シタリ仍テ丙者ハ直ニ民

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

事裁判所ニ訴フ某之ヲ聞キ四百三十三圓餘金ヲ請求高ニ對シ若  
 千金ヲ甲者ニ與ヘ示談シテ其義務ヲ解除ス然ルニ丙ハ甲ヨリ受  
 取ル所ノ四割ノ半額ヲ乙者ニ與ヘテ唯十圓金ヲ贈レテ其初メ  
 約ニ背クヲ以テ乙者始末ヲ具シ十圓金ヲ證シテ其不正ノ所爲  
 ナル者ヲ自首ス以上ハ如キ甲乙丙者ハ其請求スルカチサレバ證  
 ナル事ヲ知テ裁判所ニ訴ヘタル末示談ノ上若キ金ヲ受テ取リテ  
 サレバ皆詐欺取財ノ正犯ナルモノニ候哉或ハ其カ當時若干金ヲ出  
 由ニ起ルニ拘ハテ民事上甲者ニ請求スル權利アルモノニ由  
 某カ再ヒ義務ヲ負ヘキモノニ非カ若シ自國ノ私金ヲ以テ返  
 償スルモノニ非ズト証明スルハ得テ至若始メテ民事上若  
 千金ヲ取戻及ヒ其費用ハ償却受分者ニ對テ甲乙丙等并罰セ  
 テモ、モノニ無之候哉

○大審院長判事 十五年六月廿八日伺。同七月七日付  
 無代價飲食等ノ者處分方ノ儀議論區々涉ル難決右者會テ教師  
 ボク又ナリ他八ノ質問ニ對シ別紙ノ通函答書ニ右存答書

七百五十三

論理ニ準據シ處分可致哉又右答書論理ハ採用不致方ニ可有  
 之哉

別紙

最初ヨリ代價ヲ償フコト能ハサルコトヲ知テ飲食ヲ爲シタル後  
 其代金ヲ拂ハサル事

飲食店ニ於テ自ラ代金ヲ拂フコト能ハサルコトヲ知テ飲食ヲ爲シタル後  
 ハ佛國ニテモ實ニ甚シキ景況ヲ現ハシ遂ニ千八百七十二年七月  
 廿六日ニ至テ新タニ之ヲ罰スル法則ヲ設クルニ至レリ  
 右ノ罰則ハ彼ノ竊盜ヲ處スル規則ヲ記載スル第四百一條ニ之ヲ  
 記入セリ然レ是レハ立法者ノ誤謬也蓋シ盜罪ノ主要ナル性質ハ  
 惡意ヲ以テ他人ノ物品ヲ竊取スルニ在リ然ルニ右ノ場合ニ於テ  
 ハ固ヨリ其惡意アルヤ明カナリト雖モ決シテ竊取ノ所爲アリト  
 云フ可カラテ他ノ語ヲ以テ之ヲ云ハシムルモノハ己レノ物品ヲ  
 渡サシメタルナリ決シテ自ラ之ヲ取リタルニ非ス  
 故ニ右ノ罰則ハ必ズ詐僞取財第四百五條ノ所ニ之ヲ記スルヲ至  
 當トス

詐僞取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

七百五十三

ナレハ其竊取ノ所爲ナキカ故也之ヲ詐僞取財トシテ罰スルヲ得ル乎

刑法草案第四百三十四條ニ記スル所ハ新刑法第三百九十條ニ記スル所ヨリ一層廣濶ナリ草案第四百三十四條ニハ證書又ハ其他ノ有價物ヲ渡サシムル總テノ偽計云々ト記載アリ之ニ反シテ刑法第三百九十條ニテハ無根ノ危險ヲ畏怖セシメ又ハ無實ノ利益ヲ希望セシメテ詐僞ヲ行フタル場合ノミニ限テ詐僞取財ノ罪アリト爲セリ故ニ本條ヲ以テ右ノ所爲ヲ處分スルヲ得ス  
人或ハ云ハシ草案第四百三十四條モ亦右ノ詐僞ニ之ヲ適施スルヲ得ス如何トナレハ其殊爲ニハ少シモ偽計アリト云テ可カラサルカ故ナリ(但シ其飲食ヲ爲シタル者自ラ充分ノ金錢ヲ有スル模様ニ見セ懸クタル時ハ此限ニアラズ)飲食店ニ至リテ己レノ爲メニ其飲食ヲ出サシメタルノ所爲ノミヲ以テ決シテ一ノ偽計ナリト看做スコヲ得スト然レモ草案委員中ノ一人チル下名ノ者ハ當時評議ノ際ニ於テ右ノ如キ場合ハ必ス第四百三十四條ノ文意中ニ合入ス可キモノナリト論定セシコトヲ記憶スル也(當時常ニ佛蘭西成典ヲ參觀シタルヤ明カ也)

草案第四百三十四條ヲ以テ本件ニ適施スヘキヤ否ヤノ論ハ最早ヤ無要ノ問題ナリ如何トナレハ新刑法ニテハ單ニ二個ノ場合ノミ之ヲ限リタルカ故也  
今日ニ於テハ右ノ如キ事件ニ付キ唯民事上ノ訴訟ヲ爲スノミニ止マル也

刑法草案註釋ニハ第四百三十四條ニ付テ右ノ問題ヲ論辨スルヲ注意ラサルヘシ

千八百八十二年二月十五日 東京 ボワソナード

指令伺ノ趣飲食店ヲ欺罔シ飲食シタル者ハ刑法第三百九十條ヲ以テ論ス可キ者トス但欺罔ノ情狀ハ裁判官ノ判任ニアリ

(理由)刑法第三百九十條ニ欺罔云々トアルハ汎ク詐僞ノ所爲ヲ網羅セシモノニシテ舊律例ニハ匡賺拐帶局騙等孰レモ詐欺ノ罪ノ内ニ在リ其手段ヲ分拆スレハ幾十有ノ種別アルハ其故然之ヲ掲書スルヲ難キ因テ刑法ハ一言以テ之ヲ蔽ヒシモノナルヲ然ルニ律ニ正條ナキ者ハ罰セズトシテ原則ヲ詐僞ノ場合ニ適用セシメスルハ頗ル拘泥タルヲ規カレズ夫レ金銀モ飲食モ財物ナルニ相違ナシ而シテ詐僞飲食ヲ

詐僞取財ノ罪及受寄財物ニ關スル罪



第三百九十二條  
物件ヲ販賣シ又ハ交  
換スルニ當リ其物質  
ヲ變シ若クハ分量ヲ  
偽テ人ニ交付シタル  
者ハ詐欺取財ヲ以テ  
論ス

○滋賀縣 十五年一月十六日伺。全年二月十日付  
第三百九十三條第二項ニ自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲  
シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物トナシタル  
者又同シトアリ右ハ不動産質入書入規則ニ依リ戸長ノ公証ヲ受  
ケタルモノニ限リタルガ若シ然ルハ戸長ノ公証ヲ受ケサル時  
ハ假令欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物ト爲スモ其罪  
ヲ問ハサルヤ如何

第三百九十三條

他人ノ不動産不動産ヲ  
冒認シテ販賣交換シ  
又ハ抵當典物ト爲シ  
タル者ハ詐欺取財ヲ  
以テ論ス  
自己ノ不動ト雖モ己  
ニ抵當典物ト爲シタ  
ルヲ欺隱シテ他人ニ  
賣與シ又ハ重テテ抵  
當典物ト爲シタル者  
亦同シ

○滋賀縣 十五年一月十六日伺。全年二月十日付  
第三百九十三條第二項ニ自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲  
シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物トナシタル  
者又同シトアリ右ハ不動産質入書入規則ニ依リ戸長ノ公証ヲ受  
ケタルモノニ限リタルガ若シ然ルハ戸長ノ公証ヲ受ケサル時  
ハ假令欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物ト爲スモ其罪  
ヲ問ハサルヤ如何

指令戸長ノ公証ヲ受ケサルモ亦第三百九十三條ニ依ル  
(理由)不動産ノ抵當ニシテ戸長ノ公証ヲ受ケサルモノハ他  
ノ債主若シハ該不動産ニ就テ權利ヲ有スル者ニ對スルノ時  
ニ至リ初メテ其抵當ノ効ヲ失フモノニシテ初メヨリ抵當ノ  
効ナキモノニ非ス債主債主ノ間ニ在テ十分ニ其効ヲ有ス  
ル者ナリ故ニ戸長ノ公証ヲ受ケサルモノタヒ抵當物ト爲シ  
タルモノニハ相違ナキヲ以テ仍ホ本條ニヨリ處分スヘキモ  
ノトス

○仙臺始審廳檢事 十五年二月十五日請訓。全年四月八日内訓  
刑法第三百九十三條ニ於テ他人ノ不動産不動産ヲ冒認シテ販賣交

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪



換シ云々詐欺取財ヲ以テ論スト之レアリ右文意ニ依ルキハ該犯ニ對スル其被害者ハ動産不動産主ニ非ズシテ單ニ買取者ニ歸スルモノ、如シ然ラハ物主ハ該犯ニ對シテハ賠償返還ノ詞訟ヲナスノミナルカ爰ニ甲某ナル者所有ノ田反別若キ乙某ニ賣渡シ公證ハ得タレ其地租改正中ニテ未タ地券書キ替ニ相成ヌ其後長役場ニ於テ誤テ其地券甲ノ名前ニテ甲ニ下付タレ奇貨トシ前ノ賣渡ヲ押シ包ニ丙某ヲ欺キ其反別若キ圓ニ賣渡シタリ之ヲ新法ニ問フキハ即チ他人ノ不動産ヲ冒認シテ販賣シタル罪トナシ刑法第三百九十三條ニ擬斷スヘキモノト認ム然ル處丙某ハ甲ノ娘ノ配偶ナルヲ以テ第三百七十七條ニ照シ甲ノ罪ヲ論セサルモノト爲シ其不動産ハ固ヨリ乙ノ有ニ歸シ一点ノ損害ナシ如斯場合ニ於テハ甲乙ニ對シ懲罰ヲ受クル者責メガキモハ根柢シテ然ラハ之レハ動産ニ係ル轉或ハ消費資力無資力コト賠償ノ力ナキ時ハ乙ハ唯々損失ニ止メ甲ヲ不問ニ付スルハ理アルニ然ラバ甲刑罪ヲ問フヘキモノトモ不動産不動産ノ別ナク乙ニ對シ第三百九十三條ニ論擬シ然ル處ニ於テハ乙ニ對シ請訓ノ趣冒

内訓他人ノ動産不動産ヲ冒認販賣シタル件ニ係リ請訓ノ趣冒

認販賣ノ罪ハ動産不動産ニ拘ラズ其所有者及ビ買取者ニ對スル罪ナリトス故ニ甲ハ乙ニ對シ罪アルヲ以テ假令丙ニ對スル罪ヲ論セサル時ト雖モ未段見解ノ通ニ依リテ認販賣ノ罪ニ對シ刑法第三百九十三條他人ノ不動産ヲ冒認云々トハ所有主ニ至ラシメズシテ已ノ物タル方法ヲ以テ販賣交換又ハ抵當典物ト爲スコト云フハ勿論ナレモ詐欺ヲ蒙リ財ヲ取ラレタル被害者ハ不動産所有主ナルカ又ハ買得交換シ得タル者ナル歟若シ所有主ナレハ現時成規ニ依レハ不動産ヲ低當典物トナスハ夫々公證付シレハ不能儀ニ付唯證書面ニ他人ノ不動産ヲ記載スルト雖モ固ヨリ抵當典物ノ効ナケレハ右ノ所有主ハ毫モ其所有權ヲ棄損セラレタル被害者アラサル也然ラハ詐欺セラレタル者ハ買得交換抵當典物ニ取リタル者ナクシテ候ヤ

○宇和嶋輕罪廳檢事 (十五年三月廿三日請訓) 全年四月廿日內訓

刑法第三百九十三條他人ノ不動産ヲ冒認云々トハ所有主ニ至ラシメズシテ已ノ物タル方法ヲ以テ販賣交換又ハ抵當典物ト爲スコト云フハ勿論ナレモ詐欺ヲ蒙リ財ヲ取ラレタル被害者ハ不動産所有主ナルカ又ハ買得交換シ得タル者ナル歟若シ所有主ナレハ現時成規ニ依レハ不動産ヲ低當典物トナスハ夫々公證付シレハ不能儀ニ付唯證書面ニ他人ノ不動産ヲ記載スルト雖モ固ヨリ抵當典物ノ効ナケレハ右ノ所有主ハ毫モ其所有權ヲ棄損セラレタル被害者アラサル也然ラハ詐欺セラレタル者ハ買得交換抵當典物ニ取リタル者ナクシテ候ヤ

○前橋始審廳檢事 (十五年六月十四日伺) 全年廿五日付

詐偽取財及受寄財物ニ關スル罪

茲ニ甲絶家ニ屬スル若干ノ田畑アリ甲ノ同姓乙某ノ子ヲシテ絶家ヲ相續セシム其子幼年一家ヲ治スル能ハス乙ノ家ニ同居ス右ノ手續ナルヲ以テ親戚協議ノ上該若干田畑ハ乙名請ノ地券トナシ所有セリ爾來該田畑ハ乙數年間耕作公租村費トモ悉皆乙ノ擔當出費スル處タリ然ルニ絶家甲某ノ親戚丙某ヨリ該田畑乙ノ所有スルハ不當ノ所爲ナリトシハチテ該地ヲ已ノ所有ニテサソク掛合及ビ乙ノ不肯ヲ憤リ擅ニ該田畑ヲ耕シ現ニ米麥大豆等仕付ケ所得ニ已レニ入レ公然自己ノ所有トスル者アリ右等ノ如キハ他人ノ不動産ヲ冒認シ不正ノ利益ヲ得タル明ナレハ假令販賣交換又ハ抵當典物ト爲サ、ルモ刑法第三百九十三條ニ依リ處斷スル儀ト心得可然ヤ

指令他人ノ所有地ニ於テ擅ニ耕作ヲ爲シタル者處分ノ件請訓ノ趣右ハ民事上ノ損害ニ止リ未タ刑法ニ問フヘキモノニ非ス此旨及内訓候也

(理由) 刑法第三百九十三條ハ他人ノ不動産ヲ販賣交換抵當典物ト爲シタル者ヲ罰スル法ニシテ本按ノ如ク擅ニ耕作シタル者ヲ罰スル法ニアラス本按乙者カ丙ノ擅ニ耕作スルヲ防

カントホレハ民事裁判所ニ申立相當ノ處分ヲ仰クヘシ

○開拓殘務取扱調所廣文 (十五年三月二十九日問合) 十五年四月二十二日回答

他人ノ物品ヲ借受テ質入ズル者ノ如キ流質ナラサル限ハ消費トハ云フ可カラサルヲ以テ刑法第三百九十五條ニ依リ處斷スヘキモノニアラス民法ニ屬スヘキモノニ有之ヘク哉

回答冒認 情アルキハ刑法第三百九十三條ニ依テ處分スヘキモノトス

○警非始審廳判事 (十五年八月十八日質議) 十五年九月二十日回答

甲鶴吉ノ父龜藏ナル者存生中一ノ家屋及地所共乙松助ニ賣却シテ其價額ハ悉皆受取り其不動産ハ龜藏ヨリ引渡シタル後遺テ地券ヲ書換及ヒ家屋賣買願等戸長役場ニ可差出口約ニテ乙松助ハ已ニ其家屋ニ移住シ而龜藏ハ其口約ヲ果サヌシテ死亡セリ依テ乙松助ニ於テ龜藏ノ相續タル甲鶴吉ニ係リ地券書換及家屋賣買願等履行スヘキ旨掛合タルニ甲鶴吉ニ於テ不日地券書換及家屋賣買ノ履行ヲ可キトノ日延議定證ヲ乙松助ニ差入レタリ而シテ戸長役場ヲ經由セスト雖モ甲乙ノ間純然タル私約ノ成立シタルモノナリ然レモ未タ公證ノ證書ヲ經サレハ甲乙ノ間其所有權ノ

詐偽取財及ヒ受寄財物ニ關スル罪

何レニアカヤ確定セサルモノ、如シ然ルチ甲鶴吉、其未タ確定セサルチ僥倖トシテ乙松助へ無斷キテ私擅ニ丙竹三郎へ該家屋地所共公正ノ證書ヲ得且地券ヲ書換以テ賣却セリ依此鶴吉ノ所爲ハ刑法何條ニ依ル可キモノカ

回答刑法第二百九十三條ニ依リ罰スヘキモノトス

○磐井始審廳判事 (十五年九月廿九日質議)

八月十七日付ヲ以テ御質議ニ及ヒタル事實ハ刑法第三百九十二條ニヨリ罰スヘキモノナル旨御回答ノ趣了承然ラハ甲ノ公證ヲ

經テ丙ニ賣渡タル宅地及ヒ建家ハ其儘丙ノ所有ニ歸セシメ私ノ證書ヲ以テ其宅地及ヒ建家ヲ買フヘキ約定アル乙ハ只其要償ノ訴權ヲ有スルニ止マルカ將タ之ニ反シ丙ノ所有ヲ奪回シテ乙ノ所有ニ歸セシムル處分ヲ爲スヘキモノヤ

回答御質議刑法第三百九十三條云々ハ前段御見込ノ通ト思考ス

○前橋輕罪廳檢事 (十五年十月廿日伺) 全年八月廿八日付質

第一條刑法第三百九十三條ニ冒認シテ云々トアルハ己レノ手ニ觸レサル所ノ物件ヲ其所有主ニ知ラズニ己レノ所有ト言做シ

之ヲ他人ニ交付セシ所爲ノミチ云ヒ其借用物典物又ハ委託ヲ受ケタル物件即チ己レノ手ニ在ル所ノモノヲ自己ノ所有ト言做シ販賣交換又ハ抵當典物ト爲シタルモノハ云ハサルカ

指令第一條他人ノ物件ヲ冒認シテ販賣交換又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ己ノ手ニ觸ル、ト觸レサルト所有主ノ知ルト知ラサルトヲ論セス刑法第三百九十三條ニ依リ處分シ其委託ノ物件ニ係ル者ニシテ己レ費用シタル時ハ詐僞ノ所爲アルト否トチ區別シ刑法第二百九十五條ニ依リ處分ス

此ノ罪ハ... 詐僞ノ所爲アルト否トチ區別シ...

第三百九十四條  
前數條ニ記載シタル  
罪ヲ犯シタル者ハ六  
月以上二年以下ノ監  
視ニ付ス

○宇和島輕罪廳檢事 十五年五月十日請訓。同月卅日內訓  
第一條爰ニ甲者アリ乙者ヨリ損料蒲團ヲ借入レタリ乙者其借賃  
ヲ滞ルヲ憤リ蒲團ノ返却ヲ求ム甲者告ケルニ質入シタルコトヲ以  
テス乙之ヲ告訴セリ仍テ物件ノ所在ヲ問ヘハ質取主ハ流期ノ定  
メアルモノニシテ甲者カ約束ノ期限ニ受ケ戻サ、ルニヨリ之ヲ  
流賣シ其所在ヲ知ラスト云フ此ノ如キハ賃借物ト雖モ通常ノ借  
用物ト同視シ流期ノ限リタルコトヲ承知シ質入レシ限内受戻サ、  
ルモノニ付借用ノ物件ヲ消費シタルモノヲ以テ論シ可然ヤ  
第二條前條ノ如ク乙者ノ損料蒲團ヲ借得テ甲者質入シタルニ付  
乙者ニ告訴セラレタリ然ルニ質物流期ヲ經過セシモ幸ニ物件ハ  
質主ノ都合ニヨリ尙ホ存在セリ因テ告訴ヲ受ケタルノ後甲者ハ  
質主ヘ相對ノ約束ヲ以テ再ヒ質戻シ乙者ニ返却スルコトヲ得タリ  
是等モ甲者カ初メヨリ流期ヲ承知シテ期内ニ受戻サ、ルモノナ  
レハ告訴ノ後乙者ヘ徵倖返却ヲ得ルモ滿期ノ來リシ時已ニ取戻  
ノ權ヲ失フタル者ナレハ犯罪ハ此際ニ成立テ其後ノ仕方ニ依テ  
消滅スルモノニ無之尙ホ借用物件消費ヲ以テ論スヘキモノニ候  
哉刑法第三百九十五條ニ罰スル趣意ハ消費アルモノナレハ物件

第三百九十五條

受寄ノ財物借用物又  
ハ典物其他委託ヲ受  
ケタル金額物件ヲ費  
消シタル者ハ一月以  
上二年以下ノ重禁錮  
ニ處ス若シ騙取拐帶  
其他詐欺ノ所爲アル  
者ハ詐欺取財ヲ以テ  
論ス

○宇和島輕罪廳檢事 十五年五月十日請訓。同月卅日內訓  
第一條爰ニ甲者アリ乙者ヨリ損料蒲團ヲ借入レタリ乙者其借賃  
ヲ滞ルヲ憤リ蒲團ノ返却ヲ求ム甲者告ケルニ質入シタルコトヲ以  
テス乙之ヲ告訴セリ仍テ物件ノ所在ヲ問ヘハ質取主ハ流期ノ定  
メアルモノニシテ甲者カ約束ノ期限ニ受ケ戻サ、ルニヨリ之ヲ  
流賣シ其所在ヲ知ラスト云フ此ノ如キハ賃借物ト雖モ通常ノ借  
用物ト同視シ流期ノ限リタルコトヲ承知シ質入レシ限内受戻サ、  
ルモノニ付借用ノ物件ヲ消費シタルモノヲ以テ論シ可然ヤ  
第二條前條ノ如ク乙者ノ損料蒲團ヲ借得テ甲者質入シタルニ付  
乙者ニ告訴セラレタリ然ルニ質物流期ヲ經過セシモ幸ニ物件ハ  
質主ノ都合ニヨリ尙ホ存在セリ因テ告訴ヲ受ケタルノ後甲者ハ  
質主ヘ相對ノ約束ヲ以テ再ヒ質戻シ乙者ニ返却スルコトヲ得タリ  
是等モ甲者カ初メヨリ流期ヲ承知シテ期内ニ受戻サ、ルモノナ  
レハ告訴ノ後乙者ヘ徵倖返却ヲ得ルモ滿期ノ來リシ時已ニ取戻  
ノ權ヲ失フタル者ナレハ犯罪ハ此際ニ成立テ其後ノ仕方ニ依テ  
消滅スルモノニ無之尙ホ借用物件消費ヲ以テ論スヘキモノニ候  
哉刑法第三百九十五條ニ罰スル趣意ハ消費アルモノナレハ物件

詐偽ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪



其未タ流質ニ至ラサルヲ以テ預シ主ノ認許承諾アル時ハ罪  
トナラサルヤノ趣旨ニ候處己ニ被害者トナリ告訴セシ上ハ爾  
後被害者ノ私和アリシトテ無罪爲メコトヲ得テ但裁判上相當  
少輕減ヲ爲ス各別ナリトス  
第二條何レシ鳩合ニ於テモ預シ主カ被告ニ對シ入質ノカキ承諾  
シタル上ハ其次時返却ヲ怠ルト雖モ既ニ性質ヲ變シ承諾上右リ  
成立シ若ト看做シ此返却ヲ請求スルハ民事裁判ノ執行ヲ求ムル  
儀ト必得可然哉

通 内訓公訴ニ付テテ前條ニ依リテ了解スルハ私訴ニ付テテ  
○秋田縣 十五年二月廿四日伺 全年三月廿九日付

甲乙丙丁共有ノ家屋堂宇アリ其共有ノ一入即チ甲ナルモノ乙丙  
丁ニ斷リナク密ニ取毀テ賣却シテ費用セシモノアリ如斯ハ刑法  
第三百六十六條ヲ以テ論スルキカ  
指令四名共有ノ家屋ニシテ甲者ノ看守スル如キハ刑法第三百  
九十五條ニ依リ若シ單ニ共有ニ止ル時ハ刑法第三百九十二條  
ニ依リ處分スルキモノトス

○警井始審廳判事 (十五年 月 日請訓)

甲ノ人力車ヲ一ヶ月二圓ノ賃金ニテ乙ニテ借受ケ之ヲ丙ニ賣却  
スルニ今二圓入金スレハ我所有物ナリト主張シ賣渡シ其代金ヲ  
費消シタル罪ハ刑法第三百九十五條ニ相當スル者カ將タ同第三  
百九十三條ニ適應スルカ

内訓前段見解ノ通

○前橋始審廳檢事 (十五年十二月十一日質問)

第七受寄ノ財物借用其他委託ヲ受ケタル物件ハ其所有主ニ對シ  
詐僞ノ所爲 (例ハ盜難ニ罹リ又ハ紛失シ或ハ返濟シタルト詐稱スルノ類) ナキ以上ハ假令販  
賣交換スルニ當リ買主ニ對シ自己ノ所有物ト偽稱スルモ刑法第  
三百九十三條第一項ニ該當セルカ  
回答第七受寄ノ財物借用物其他委託ヲ受ケタル物件ナルニ於  
テハ其所有主ニ對シ詐僞ノ所爲ナキト否トナ問ハス刑法第三  
百九十五條ヲ適用ス

詐僞取財及ヒ受寄財物ニ關スル罪



此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條  
此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條  
此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第三百九十八條  
此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス



○磐井始審廳判事 十五年五月廿日質議 同年六月五日回答  
 刑法第三百九十九條強盜ノ贓物ナルヲ知テ云々又第四百一  
 條詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ云々其詐欺  
 取財等ニ關シタル物件ニ限リ贓物ト云ハサル理由御明示有之度  
 回答御質議ノ趣了承刑法第三編第六節ハ贓物ニ關スル罪ヲ記  
 載シタルモノニ付第四百一條中物件トアルモ亦贓物ノ意義ニ  
 シテ別ニ其理由ナキ義ト思考ス

○浦和輕罪廳檢事 (十五年十一月十一日質議)  
 第二條父ノ物品ヲ其子ノ盜取リタル情ヲ知リナカラ故ラニ之ヲ  
 買取シタル者ハ刑法第三百七十七條第二項ノ精神ニヨリ無罪タ  
 ルヘント云フモノアリト雖モ小官ハ通常竊盜品ヲ故買シタル者  
 ト見做シ刑法第三百九十九條ニ依リ罰ス可キ者ト思料ス  
 回答御質問ノ趣審案候處第二條ハ刑法第三百九十九條ニヨリ  
 罰スルヲ得サル儀ト考量候

○私前始審廳檢事 十五年六月廿九日伺 全七月十七日付  
 差押ヘタル贓物アルモ犯人ノ誰タルヲ知ラス公訴ヲ起サ、ル場  
 合ニ於テ檢察官其贓物ハ搜查ニ必要ナラスト思料スル時ハ行政

第六節 贓物ニ關ス

ル罪

第三百九十九條

強竊盜ノ贓物ナルヲ  
 ナ知テ之ヲ受ケ又ハ  
 寄藏故買シ若クハ牙  
 保ヲ爲シタル者ハ一  
 月以上三年以下ノ重  
 禁錮ニ處シ三圓以上  
 三十圓以下ノ罰金ヲ  
 附加ス

附加ス  
 第三百九十八條

警察官ニ移シ同官ニ於テ處分スル義ト心得候得共其規則無之ニ  
 付相伺候也  
 指令伺ノ趣警察官ニ交付シ還付セシムルモ苦シカラス

第四百條  
前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

（以下は非常に淡く、読み取れない文字が並んでいる）

○開拓札幌本廳（十五年一月廿六日問合）

刑法第四百一條ニ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ云々ト有之處偽造ノ証書タルヲ知テ受クルモノハ此條ニ據ルヘキヤ

回答偽造ノ証書ヲ知テ受クルトハ如何ナル場合ヲ云ヒシモノナルヤ事實ヲ御明有度之候

○姫路始審廳判事（十四年十二月二日請訓）

第四百一條其地ノ犯罪ニ關シタル物件中ニ遺失又ハ漂流物及埋藏物モ亦包含シタル者歟果シテ然ルハ其物ヲ拾ヒ又ハ掘リ得之ヲ隠匿シタル者ハ第三百八十五條第三百八十六條ニ依リ置ニ罰金ノ刑ニ處セラル、トテ得其附從犯タル者即チ其情ヲ知テ之受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保爲シタル者ハ本條ニヨリ禁錮罰金ニ併科セサルヲ得ストスルハ頗ル權衡不當ナルヲ覺ユ  
試ニ章按テ閱スルニ其第四百四十四條ニ盜犯ノ贓物其地前數節ニ記載シタル犯罪ニ關スル物件ナルヲ知テ之ヲ云々シタル者ハ并ニ各本犯ノ附從トナシテ論ストアリ今之ヲ第三百九十九條ト本條トニ修正シ前例ノ場合ニ於テ附從犯ニ其重ヲ加ヘル如キハ

第四百一條  
詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

如何ナル旨意ヲ有スル者ハ、（理由）草案ニハ之ヲ事後從犯トナシタレドモ本條ニ別ニ一箇ノ罪トシテ其刑ヲ定メタルヲ以テ從犯ト云フヲ得ズ然レモ此等ノ物件ヲ届出テサルモノハ之ヲ受寄故買スル者等ニ比スレハ其罪惡稍重シ然ルニ届書ヲ爲サハルモノハ其刑輕ク受寄故買スル者ハ其刑重キハ不撓衡ヲ免カレズ然レモ草案ヲ改メテ本條ヲ設ケタル旨意ノ如キハ立法ノ旨趣ニ係ルヲ以テ内訓スルノ限ニアラス

○大津始審廳裁判所檢事（十五年十一月十七日伺）  
（全年全月三十日付）  
 第一條賭博ノ器具財物ヲ沒收スルハ犯罪ニ關スル物件ヲ以テノ故ナラン然レハ博徒ノ列ニ加ハリ輸贏ヲ決シタル者ニアラス開張招結ノ所爲スル者コアラズト雖モ現場ニ在テ其財ヲ受ケル時ハ仍ホ刑法第四百一條ニ從ヒ可然哉

指令第一條伺ノ通

如何ナル旨意ヲ有スル者ハ、  
 内訓遺失漂流埋藏物ヲ得テ相當ノ手續ヲ行ハサル時ハ此等ノ物品ハ犯罪ニ關シタル物件ナリトス本條ノ犯者ハ從犯ニ非ス立法ノ旨ハ訓示ノ限コアラズ

（理由）草案ニハ之ヲ事後從犯トナシタレドモ本條ニ別ニ一箇ノ罪トシテ其刑ヲ定メタルヲ以テ從犯ト云フヲ得ズ然レモ此等ノ物件ヲ届出テサルモノハ之ヲ受寄故買スル者等ニ比スレハ其罪惡稍重シ然ルニ届書ヲ爲サハルモノハ其刑輕ク受寄故買スル者ハ其刑重キハ不撓衡ヲ免カレズ然レモ草案ヲ改メテ本條ヲ設ケタル旨意ノ如キハ立法ノ旨趣ニ係ルヲ以テ内訓スルノ限ニアラス

贓物ニ關スル罪

七百八十一

如何ナル旨意ヲ有スル者ハ、  
 内訓遺失漂流埋藏物ヲ得テ相當ノ手續ヲ行ハサル時ハ此等ノ物品ハ犯罪ニ關シタル物件ナリトス本條ノ犯者ハ從犯ニ非ス立法ノ旨ハ訓示ノ限コアラズ

（理由）草案ニハ之ヲ事後從犯トナシタレドモ本條ニ別ニ一箇ノ罪トシテ其刑ヲ定メタルヲ以テ從犯ト云フヲ得ズ然レモ此等ノ物件ヲ届出テサルモノハ之ヲ受寄故買スル者等ニ比スレハ其罪惡稍重シ然ルニ届書ヲ爲サハルモノハ其刑輕ク受寄故買スル者ハ其刑重キハ不撓衡ヲ免カレズ然レモ草案ヲ改メテ本條ヲ設ケタル旨意ノ如キハ立法ノ旨趣ニ係ルヲ以テ内訓スルノ限ニアラス

○大津始審廳裁判所檢事（十五年十一月十七日伺）  
（全年全月三十日付）  
 第一條賭博ノ器具財物ヲ沒收スルハ犯罪ニ關スル物件ヲ以テノ故ナラン然レハ博徒ノ列ニ加ハリ輸贏ヲ決シタル者ニアラス開張招結ノ所爲スル者コアラズト雖モ現場ニ在テ其財ヲ受ケル時ハ仍ホ刑法第四百一條ニ從ヒ可然哉

指令第一條伺ノ通

○滋賀縣 十五年一月十六日伺。全年二月十日付

火ヲ放テ人ノ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シテ圖ラズ人ノ住居シタル家屋ニ延燒スルモ第四百四條ニヨリ處分スヘキヤ若シ故ラニ延燒セシムル目的ヲ以テ火ヲ放テ延燒シ其目的ヲ遂ケタルハ第四百二條ニヨリ處分スヘキ哉

指令伺ノ通但柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シ人ノ住居スル家屋ヲ延燒スルモノハ其時ノ景況ニ從ヒ裁判官ノ判定ニヨリ第四百二條ニヨリ處分スルコトアルヘシ

自己ノ家屋ニ火ヲ放テ燒燬シタル時ト雖モ他人ト同居中ニ係ルハ第四百二條ニ依リ處分スヘキヤ  
指令伺之通

○新潟裁判所新發田支廳檢事 (十四年九月七日請訓) (十五年十月七日内訓)

第二十九條刑法第四百二條以下ニ掲クル放火ノ罪若シ人ヨリ貸與ヲ受ケ自己ノ住居スル家屋ニ放火シタル場合ニ於テハ第四百七條ヲ以テ論シ若シ自己ノ所有ニ係ルモ他人ニ貸與シタル家屋ニ放火シタル時ハ第四百二條ヲ以テ論スヘキ者ニ可有之哉  
内訓第二十九條人ヨリ貸與ヲ受ケタル家屋又ハ人ニ貸與シタル

ル家屋ニ放火スル者ハ并ニ第四百二條第四百三條ヲ以テ論シ其馬車等ニ放火スル者看守ナキ場合ハ第四百六條ヲ以テ論スヘシ

(理由)人ヨリ貸與ヲ受ケ自己ノ住居スル家屋ニ放火スル者ハ即チ他人所有ノ家屋ニ放火スル者ナリ人ニ貸與シタル家屋ニ放火スル者ハ即チ自己所有ノ家屋ニ放火スル者ナリト雖モ其家屋中借受人ノ財産アリ又其借受人ノ住居スル者アルヘシ其害ヲ爲スヤ他人ノ家屋ニ放火スルト異ナルコトナシ故ニ共ニ第四百二條第四百三條ノ區別ニ從ヒ其刑ヲ定ム可シ馬車人力車ニ放火スル者若シ看守ナキ場合ニ於テハ第四百六條ヲ以テ處シ若シ又家屋内ニアル車ニ放火スレハ第四百二條第四百三條ノ未遂犯トナル場合アルヘシ

○宇都宮始審廳判事補 (十五年十二月八日伺) (全年全月十六日付)  
本文審内訓ニテ區別スルヲ以テナリ  
指令伺ノ趣事實ノ模様ニ依リ一概ニ論シ難シ但門戸庇等家屋中些少ノ部分ヲ燒燬シタル者ハ刑法第四百二條ノ未遂犯ヲ以テ論スル場合モアルヘシ

放火失火ノ罪

第七節 放火失火ノ

罪

第四百二條

火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス